

【付録】

- ①平成 28 年度 全学入学前教育プログラム実施報告
- ②平成 29 年度「自立と体験 1」実施報告
- ③平成 29 年度「自立と体験 3」実施報告
- ④平成 29 年度「自立と体験 4」実施報告
- ⑤平成 29 年度「キャリアデザイン 1」報告書
- ⑥平成 29 年度「キャリアデザイン 2」報告書
- ⑦平成 29 年度自校史教育事業報告

2017年7月5日

学長 大橋 有弘 殿

明星教育センター担当副学長
明星教育センター長 菊地滋夫

平成 28 (2016) 年度 全学入学前教育プログラム 実施報告書

Summary (概要)

- ・平成 28(2016)年度に実施の全学入学前教育は、(1) スタートアップ講習、(2) 通信教育、(3) フォローアップ講習、(4) スクーリング、(5) 特別講座の5つのプログラムを行った。
- ・スタートアップ講習での授業体験や在学生との関わりは、入学後の大学生活をイメージする良い機会になったのではないかと考えられる。また、同日に実施した保護者ガイダンスでは、活発な質疑応答がなされ、本学の教育に対する関心の高さがみてとれる内容となった。
- ・通信教育では、前年度よりも高い完了率となり、目的として掲げる学力の伸張がみられ、真剣に学習に取り組む姿勢がみられる。
- ・フォローアップ講習は、参加者は6名であった。実施時期を前年度よりも一ヶ月前倒しにし、「きちんと学習するように」といった個別指導を密に行った結果、対象者が大幅に減少した。
- ・スクーリングは、利用に対する宣伝・周知により延べ97名の参加があった。
- ・特別講座は222名の参加があった。
- ・次年度への課題として、①通信教育プログラムの再検討、②通信教育(英語Sコース)の修了テスト変更、③小論文課題の採点基準の見直しとICTシステムの活用、④リメディアル教育との円滑な接続(「学習ステーション」の積極的な活用)などが挙げられる。

1 はじめに

平成 28 年 (2016) 年度の全学入学前教育プログラムは、(1) 大学生活への夢を膨らませる、(2) 学ぶ意欲を引き出し基礎学力を向上させる、(3) 学び続けることの重要性を認識させる、を目的として実施した。

(1) 大学生活への夢を膨らませる

AO 入試 (AO9 月、10 月、12 月) 合格者、推薦入試 (指定校・公募制・スポーツ文化・明星高校特別) 合格者を対象として実施したスタートアップ講習 (平成 28 年 11 月 20 日 (日)、平成 28 年 12 月 23 日 (金))、一般入試 (前期) 合格者および一般入試 (中期) 合格者を対象として実施した特別講座 (平成 29 年 3 月 22 日 (火)) などを通じて、平成 29 年 4 月以降の大学生活をイメージさせることができた。

(2) 学ぶ意欲を引き出し基礎学力を向上させる

AO 入試、推薦入試合格者を対象にして行ったスタートアップ講習で実施したプレテスト、プレテストの成績によって難易度の異なる内容からなる通信教育を継続して学習させることなどによって、基礎学力を向上させることができた。

通信教育の英語、国語、数的処理・理系数学のうち一科目でも進捗率 0 パーセントの入学予定者については、2 月 15 日 (水)・16 日 (木) にフォローアップ講習を実施した。通信教育では、入学までの間の時期を漫然と過ごすことなく、継続して学習してもらうことを主な目的として、前年度同様に e ラーニングを主とした教材で実施し、e ラーニングでは、学習が滞ったときに速やかに学習支援 (電話やメール等で学習を促す) を行い、今年度は前年度以上に受講生の学習状況の把握に努

め、学ぶ意欲の低下に起因する受講生の脱落防止に重点を置いて実施し、相対的には学ぶ意欲を引き出すことができた。

明星大学の歴史・現状・教育理念・教育方針および入学前教育プログラムについての理解を促すことを目的として実施した保護者ガイダンスは、90パーセント以上の参加者から高い評価を得ることができた。

(3) 学び続けることの重要性を認識させる

AO入試、推薦入試合格者について、合格後から2月末まで通信教育による学習を継続して行わせる等、一般入試（前期・中期）合格者については、平成29年3月22日（水）に実施した特別講座（テーマ「大学で学ぶ」）等の機会において、学び続けることの重要性を認識させることができた。

入学前教育に関する詳細は、委託業者（株式会社ワオ・コーポレーション）による「2017年度入学対象 明星大学 入学前教育 結果報告書」を参照されたい（学部支援室に配置）。

2 入学前教育プログラム実施概要

2-1 プログラムの構成

入学予定者に対して（1）スタートアップ講習、（2）通信教育（紙媒体による添削指導およびeラーニング）、（3）フォローアップ講習、（4）スクーリング、（5）特別講座とし、保護者に対しては保護者ガイダンスを実施した。

2-2 実施日程（表1）

	8月	9・10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
対象者			AO9月 AO10月	AO12月、指定校、公募制、スポーツ・文化活動特別、卒業生子女特別				
大学全体のプログラム	学科主任説明会（8月上旬）		①～④				学科入学前プログラム	
① スタートアップ講習 ⁽¹⁾	プレテスト問題検討		20日（日）	23日（金）				4月1日（金） 学力実態調査
② 通信教育 ⁽¹⁾	eラーニングコンテンツ検討		→					
③ フォローアップ講習 ⁽¹⁾						15日（水） 16日（木）		
④ スクーリング ⁽¹⁾								
① 特別講座 ⁽¹⁾⁽²⁾							22日（水）	

- (1) AO・推薦：AO9月、AO10月、AO12月入試合格者、推薦入試合格者（指定校、公募制、スポーツ・文化活動特別、卒業生子女特別など）
- (2) 一般：一般入試（前期、中期）、大学入試センター試験利用など

2-3 各プログラムの概要（表2）

	目的	対象	実施日	主な実施内容
スタートアップ講習	・年内合格者が入学までの期間を有効に使うための動機付けを行う	AO・推薦入試合格者	平成28年11月20日(日) 12月23日(金)	・①～④のプログラムを実施
② プレテスト	・通信教育のレベル分けを行う			・英語、国語(学内受験) ・数的処理・理系数学は自宅受験
③ 大学生生活スタート講座	・入学前の準備を確認する ・通信教育実施への動機付けを行う			・自己紹介、大学生生活準備度チェックなどのグループワーク(学科ごとの4人グループ) ・通信教育ガイダンス ・校歌の紹介
④ 学科交流会	・入学する学科の上級生や教員と接し大学生活のイメージをつくる			・学科ごとに各教室に分かれて実施 ・内容は学科の判断による
⑤ 保護者ガイダンス	・入学予定者の保護者に明星大学を理解し、入学までの準備への協力を求める			上記の保護者
通信教育	・入学後の学習に必要な基礎学力の修得 ・学習習慣の獲得	AO・推薦入試合格者	平成28年12月～平成29年2月	※論作文を除いてeラーニングで実施 【必修科目】 国語、英語、数学(数的処理、理系数学)、論作文(紙媒体) 【選択科目】 物理、化学、力学(学科によって異なる)
フォローアップ講習	・入学後の学習に支障を来さないようにフォローする ・リメディアル教室を知る	1月31日時点において通信教育の未着手科目が1科目以上ある入学予定者	平成29年2月15日(水)、16日(木)	・大学生活においてルールを守ることの意味を考えさせ、大学生活についてのイメージを広げるためのグループワーク(4人程度のグループ) ・リメディアル教室での作文指導
スクーリング	・通信教育をサポートする	スタートアップ講習参加者	平成29年2月～3月	・通信教育の課題に関する質問やさらに勉強したい場合に活用するよう周知
特別講座	・一般入試合格者に対して入学前教育の機会を提供する ・高校までの学びと大学での学びとの違いを理解する	一般合格者(前期・中期)年内入試合格者	平成29年3月22日(水)	・大学の授業体験(全学共通教育の教員) ・4人グループでのワークショップ。自己紹介・自分が受けた授業を他のメンバーに報告し、それを題材として大学での学びについてグループで考える

3. 実施結果

3-1. スタートアップ講習

11月20日(日)、12月23日(金)に実施(表3)。

参加者は874名(対象者985名、出席率88.7%)

<参考>平成27(2015)年度:対象者1013人、参加者916名、参加率90.4%

表3 スタートアップ講習の対象者・出席者

	実施日	対 象	対象者(a)	参加者(b)	参加率 (b/a)	保護者出席状況 (上段:組,下段:人)	
						上段	下段
1	平成28年 11月20日(日)	AO9月、AO10月	402(人)	362(人)	90.0(%)	333(組)	406(人)
2	平成28年 12月23日(金)	AO12月、指定校、 公募制、スポーツ・文化活動特別、 卒業生子女特別	583	512	87.8	422	512
合 計			985	874	88.7	755	918

<参考> 2015年度は、対象者1013人、参加者916名、参加率90.4%

(1) プレテスト

①英語、国語、数学(数的処理・理系数学)(スタートアップ講習時に大学内で受験)

受験者アンケートの集計(参加者985名中回答者819名)によると、英語では57.8%(2015年度は58.0%)が「とてもむずかしかった」「むずかしかった」と回答し、42.3%(2015年度は37.0%)が「とてもやさしかった」「やさしかった」と回答している。

国語では26.8%(2015年度は42.8%)が「とてもむずかしかった」「むずかしかった」と回答し、73.2%(2015年度は57.2%)が「とてもやさしかった」「やさしかった」と回答している。

数的処理では40.9%(2015年度は44.0%)が「とてもむずかしかった」「むずかしかった」と回答し、59.1%(2015年度は56.0%)が「とてもやさしかった」「やさしかった」と回答している(受験者の多い科目を抜粋)。

表4 プレテストの難易度

	英語		国語		数的処理	
	2016(年度)	2015(年度)	2016(年度)	2015(年度)	2016(年度)	2015(年度)
とてもむずかしかった	3.8(%)	5.0(%)	1.5(%)	2.0(%)	3.9(%)	6.4(%)
むずかしかった	54.0	58.0	25.3	40.8	37.0	37.6
<小 計>	57.8	63.0	26.8	42.8	40.9	44.0
やさしかった	38.6	33.8	60.9	50.2	43.8	44.1
とてもやさしかった	3.7	3.2	12.3	7.0	15.3	11.9
<小 計>	42.3	37.0	73.2	57.2	59.1	56.0
<合 計>	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(2) 大学生生活スタート講座

- ① 導入
- ② 自己紹介
- ③ 「大学生生活準備度」チェック
- ④ 通信教育ガイダンス
※eラーニング委託業者が担当
- ⑤ 校歌紹介
- ⑥ 振り返り

(3) 学科交流会

各学科の教員および在校生に協力してもらい実施した(参加教員は延べ24名、在校生は延べ88名)。

アンケート集計によると、「よかった」「まあまあよかった」という評価が97.1%であった。

アンケートの自由記述の回答をみると、「先輩と楽しく話せた」、「学科の雰囲気を感じとれて良かった」、「学生生活をイメージできた」等の肯定的な意見が多かった。

授業体験や在学生との関わりは、入学予定者にとって入学後の大学生活をイメージする良い機会になったのではないかと思われる。

(4) 保護者ガイダンス

明星大学の歴史・現状・教育理念・教育方針および入学前教育プログラムについての理解を促し、入学までの保護者への協力を求める内容で実施した(①～④)。

- ① DVD 上映／教育理念・方針の説明
- ② 入学前教育プログラムの概要説明
- ③ 大学事務局からの説明(入学後の学生生活を円滑にスタートさせるための保護者へのお願い)
- ④ 在学生からスピーチ

※ アンケート集計(出席者755組中回答者699組)によると、96.4%が「とても参考になった」「やや参考になった」と回答し、高い評価を得ることができた。

3-2 通信教育

eラーニング(小論文を除く)により実施

(1) 実施科目(表5)

必修科目:英語、国語、小論文、数的処理・理系数学

選択科目:物理、化学、力学(学科により異なる)

(2) 平成27年度からの変更点(表6)

プレテストの問題量を国語(20%程度)、英語(10%程度)増やして実施。英語の成績上位者(プレテスト75点以上)に対して、eラーニングの内容をTOEIC講座に変更して実施した。また、論作文課題の問題が経年により実際にそぐわない内容になってきたことから、課題の見直しを行った。

※ 国語、英語の問題の難易度を上げることも検討したが、実施業者側が対応できないとの理由から問題量を増やして実施した。

表 5 学部・学科別実施科目

学部・学科		英語	国語	小論文	数学	物理	力学	化学
全 体								
教育	教育	○	○	○	※1	※2		※2
理工	総合理工	○	○	○	理系数学	※2	※2	※2
人文	心理	○	○	○	数的処理			
	国コミ 1)	○	○	○	数的処理			
	日本文化	○	○	○	数的処理			
	人間社会	○	○	○	数的処理			
	福祉実践	○	○	○	数的処理			
経済	経済	○	○	○	数的処理			
経営	経営	○	○	○	数的処理			
情報	情報	○	○	○	理系数学			
デザイン	デザイン	○	○	○	数的処理			

1) 国際コミュニケーション学科

※1 理系コース：理系数学，理系コース以外：数的処理

※2 学系・コースにより実施

表 6 通信教育の変更点

	平成 28 年度	平成 27 年度
実施科目	<p>【必修】・英語、国語・論作文、数的処理・理系数学</p> <p>※プレテストの国語（20%程度）、英語（10%程度）で問題量を増やして実施</p> <p>【選択】・物理、化学、力学</p> <p>※紙媒体のテキストは、国語を除いて配布中止</p>	<p>【必修】・英語、国語・論作文、数的処理・理系数学</p> <p>【選択】・物理、化学、力学</p>
提出方法	<p>・eラーニングで実施</p> <p>・国語・論作文は紙媒体で実施（提出は4回）</p> <p>※論作文課題を見直し</p>	<p>・eラーニングで実施</p> <p>・国語・論作文は紙媒体で実施（提出は4回）</p>
レベル分け	<p>・英語を習熟度別に4レベル（Sレベル、Hレベル、Mレベル、Bレベル）</p> <p>※SレベルはTOEIC対策講座を受講させた</p>	<p>・英語を習熟度別に3レベル（Hレベル、Mレベル、Bレベル）</p> <p>国語は2レベル（Hレベル、Bレベル）</p> <p>・理系数学は、2レベル（Hレベル、Bレベル）</p> <p>・他科目は、1レベル</p>
費用負担	<p>・変更なし</p>	<p>・受講対象者に1万円の費用負担を求める</p>

(3) 課題達成率および実施結果 (表7)

今年度の科目別の課題達成率をみると、英語 87.4% (前年度比プラス 2.6 ポイント)、国語 86.2% (同マイナス 0.1 ポイント)、数的処理 89.7% (同プラス 1.7 ポイント) などとなっている (表6)。

入学予定者それぞれの e ラーニングによる学習状況をモニターし、学習が滞り気味の者については、電話、メール、郵便などによる励ましによる脱落防止対策を丁寧に施したことが大きく寄与していると考えられる (物理、化学の大幅なマイナスについては受講者が少ないことによるものである)。

また、スタートアップ講習で実施したプレテストの得点と、通信教育終了後に実施した修了テストの得点を比較すると、全7科目 (英語、国語、数的処理、理系数学、物理、力学、化学) で点数が上昇した。e ラーニングの導入は、プレテストと修了テストの得点を比較することにより、学習成果を短時間で把握できる点、学習の進捗状況を即時に把握し学習支援を行うことができる点などの利点が認められる。

表7 科目別課題達成率

科目	平成 28 年度 対象者 968 名 (a)	平成 27 年度 対象者 1,004 名 (b)	(a) - (b)
英語	87.4 ^(%)	84.8 ^(%)	2.6
国語	86.2	86.3	-0.1
数的処理	89.7	88.0	1.7
理系数学	81.7	78.3	3.4
物理	73.7	95.9	-22.2
力学	81.7	73.5	8.2
化学	73.9	91.2	-17.3

3-3 フォローアップ講習

通信教育科目 (英語、数的処理・理系数学、国語・論作文) において、平成 29 年 1 月 31 日時点で 1 科目でも課題に着手していない入学予定者 (81 名) を対象に、2 月 14 日 (水)・15 日 (木) に実施した。参加者数は 6 名 (前年度: 対象者 171 名中参加者 80 名) となった。

(1) 目的

- ① 大学生活においてルールを守ることを考える
- ② 大学生活についてのイメージを広げる
- ③ 学習をサポートするリメディアル教室を知る

(2) 内容 (参加人数が少ない場合は個別指導にて実施)

- ① 大学生活を充実させるためのきっかけとなるワーク (特別講座で実施)
- ② リメディアル教室での小論文指導

(3) 結果

参加者は、真剣に演習に取り組んでいたようである。

フォローアップ講習の参加率が低い原因として、対象者に対する働きかけなどの周知等が不十分であったことが考えられる。

3-4 スクーリング

大学生活スタート講座において、入学前からリメディアル教室 (現在の「学習ステーション」) を活

用できることを伝え、通信教育の課題に質問のある者やさらに学習したい者は、積極的に活用するように指導した。なお、スクーリングの参加者数は、延べ 97 名（前年度 2 名）であった。

3-5 特別講座（テーマ：「大学で学ぶ」）

年内入試合格者、一般入試（前期・中期）合格者を対象とする特別講座を 3 月 22 日（火）に実施した。

（1）目的

一般入試の合格者に対して入学前教育を受講する機会をつくり、それまでの学び（学習）と大学での学びとの違いを体験する。

（2）参加者

特別講座には 222 名が参加した（表 8）。

（3）内容

①全学共通教育、理工学部教員による模擬授業

4 クラスに分け、下記の教員、講座名で模擬授業を行った。

- ・山下善明先生（全学共通教育）、「これから学ぶ学問の様々」
- ・山崎元泰先生（全学共通教育）、「核廃絶を考える～多角的思考の重要性～」
- ・山崎藍先生（全学共通教育）、「漢詩をどう読むかー大学で「文学」を学ぶ意味ー」
- ・小野寺幸子先生（理工学部）、「科学史に学ぶものの見方、考え方」

②明星教育センター教員（榎本達彦先生、平塚大輔先生、太田昌宏先生、菅原良先生）によるワークショップ

- ・全学共通教育の教員による授業を受講し（①参照）、それぞれの授業の受講生が 1 名ずつとなる 4 名から構成されるグループを作る
- ・自己紹介／昼食（グループごと）
- ・自分が受講した授業についてワークシートを使ってまとめる
- ・完成したワークシートを使って、それぞれの受講生が受講した授業をグループのメンバーに報告する
- ・大学での学びについてグループで考える

表 8 特別講座の入試区分別参加者

入試区分	人 数	割 合
AO入試	24 ^(人)	10.8 ^(%)
推薦入試（指定校、公募制、スポーツ文化等）	12	5.4
一般入試（前期）	172	77.5
一般入試（中期）・センター利用入試	14	6.3
<合 計>	222	100.0

（4）アンケート集計（参加者 222 名、回収 222 名、回収率 100%）

得られた回答の 99.0%が、「よかった」「ややよかった」と評価している。自由記述の内容をみると、「大学での学びについて理解が深まった」、「色までは不安ばかりだったが、今日学んで、たくさん話して大学が楽しみになった」といった肯定的な意見が多くみられた。

4. 課題

入学前教育プログラムの目的のうち、「大学生活への夢を膨らませる」および「学び続けることの重要性を認識させる」ことについては、従来のプログラムにより目的が達成されていると考えられる。一方、「学ぶ意欲を引き出し基礎学力を向上させる」ことは、主に通信教育（eラーニング）で実施しているものであり、学ぶ意欲が引き出されているか、基礎学力が向上しているかについては、（1）プレテストと修了テストのスコアの比較から、基礎学力は概ね向上していることがわかる。（2）しかし、大学での学びに求められる確かな基礎学力として定着したのか、短期的（一時的）な向上に過ぎないのかは、未確認であるため、今後は上記（2）について把握する必要がある。また近時の大きな課題である円滑な高大接続がなされているかなどを目的として、これまでの成果を検証しより高次の段階を目指して継続検討を行っていくことが肝要である。

また、通信教育において、eラーニング課題の難易度と分量、学習期間等についての検討、フォローアップ講習の時期や方法、周知方法などの検討、スクーリングにおける学習ステーションの利用率を上げる工夫等の検討などを行う必要がある。

18歳人口が大幅に減少し始める「2018年問題」を踏まえ、入学予定者にとってより魅力の大きい大学を創造していくための入学前教育プログラムの開発が喫緊の課題である。

（1）通信教育プログラムの再検討

現在の通信教育プログラムは、①プレテスト、②通信教育（eラーニング）、③修了テストという構成になっているが、通信教育をeラーニングで実施することによって、学習の継続性が維持されているか、学力が伸長しているか、などの学習効果を精査し、現在のまま継続して実施するか否かを含め、プログラムの内容および構成について検討する。

（2）通信教育教材（紙媒体）活用の仕組みの検討

前年度までは通信教育において、自宅学習させることを目的として紙媒体の問題集を配布していたが、今年度は中止した。その学習に及ぼす効果を検証する。

（3）通信教育（英語Sコース）の修了テスト変更

TOEICに対応した英語（Sコース）の受講者を従来の修了テストで評価することは実態にそぐわない。通信教育の内容に即した評価試験（TOEICまたはCASECの受験）の導入を検討する。

（4）小論文課題の採点基準の見直しとICTシステムの活用

現在の小論文課題について、「採点が甘いのではないか」「採点基準を見直す必要がある」という意見があることから、採点基準の見直し（ルーブリックの作成を含む）を検討する。

また、従来は手書きで提出させていた課題をICTシステムを活用したウェブ上からの提出方法に変更することを検討する。

（5）リメディアル教育との円滑な接続（「学習ステーション」の積極的な活用）

入学前教育で理解が不十分なところの学習領域を、円滑にリメディアル教育に繋げることが望ましい。大学としては、入学前から入学後に至る継続した学修支援の仕組みを構築し、入学予定者の学習習慣をつけるとともに、学力の伸長を図る。また、フォローアップ講習に不参加だった入学予定者に対して、課題に取組ませる等の学習機会の提供も検討する。

（6）フォローアップ講習

今年度は、フォローアップ講習の開催時期を前年度より1ヶ月程度早め、2月中旬に実施したが、参加者数が6名と前年度（80名）よりも大幅に減少した。開催時期、講習内容等について再評価し検討する。

（7）eポートフォリオの活用

プレテスト、修了テスト、小論文課題などを e ポートフォリオに蓄積して提供することを検討する。

(8) その他

入学予定者から収集したアンケート結果等を参考にし、より成果（継続的な学習習慣の獲得、学力の伸長など）を上げることができるプログラムを提供できるように改善に取り組む。

以 上

学部長291012-7

平成29年10月12日・学部長会資料

学長 大橋 有弘 殿

平成29(2017)年度全学初年次教育「自立と体験1」実施報告

「自立と体験1」担当副学長 菊地 滋夫
明星教育センター長

平成29年10月12日・学部長会資料

1. 授業概要

1.1 教育目標

明星大学に学ぶ学生としての自分を理解し、各自の理想や目的を明確にすること

1.2 行動目標・到達目標

他者との関わりを通して自己理解を深め、明星大学で学ぶ自分自身を理解すること

1.3 授業内容(平成28年度からの変更点)

平成29年度の授業内容は表1のように実施した。平成28年度からの主な変更点は次の通りである。

(1) 授業名の変更

- 第4回 聴いて相手を理解する(1)→ 聴いて相手を理解する
- 第5回 聴いて相手を理解する(2)→ 話し合いを体験する

(2) 授業内容に関する変更点(4点)

- 第6回「明星大学について知る」(合同授業・ローテーション授業)において、「学長への質問」と「ゲストスピーカーへの質問」の時間を新たに設けた。そのため、平成28年度まで行っていた「課外活動に関するDVD視聴」は省いた。
- ポートフォリオに「大学生の時間管理」に関するコラム、及び「ハラスメントの新しい考え方」に関するコラムを新たに追加した。
- 第14回「これからの大学生活を描く」において、社会人基礎力(明星大学バージョン)を解説した冊子『ジリタイまなブック』を配付し、「大学生デザインシート」に学生が記入する際の参考とした(平成28年度は配付のみ)。
- 担当教員からの問題提起を受けて明星教育センター内で議論し、第15回授業提出物の「10年後の自分への手紙」に関し、学生への追加説明として「10年後の自分への手紙」みなさん(しつかり)とお届けするために「協力のお願い」を第14回授業で配付した。

(3) 補習授業について

平成29年度は、平成28年度まで実施していた補習授業を実施しないこととした。理由は、「不合格者の大幅な減少」及び「前期授業期間内での単位修得を目指す」である。

表1 第1回～第15回の授業名

回	授業名	回	授業名	回	授業名
第1回	オリエンテーション	第6回	明星大学を知る(合同授業・ローテーション授業)	第11回	ルールとマナーを考える
第2回	新しい環境で他者と出会う	第7回	明星大学を紹介する(ローテーション授業)	第12回	卒業生から学ぶ
第3回	大学での学びを考える	第8回	図書館にふれる(合同授業・ローテーション授業)	第13回	仕事と自分について考える
第4回	聴いて相手を理解する	第9回	大学職員に取材する(ローテーション授業)	第14回	これからの大学生活を描く
第5回	話し合いを体験する	第10回	自分や相手の大切を知る(ローテーション授業)	第15回	未来の自分へのメッセージ

Summary (概要)

- 平成29年度の単位修得率は94.0%となった。平成29年度は補習を実施しないため、確定後の単位修得率としては、平成28年度から1.1ポイントの低下となった。
- 学生アンケートを1回授業時と15回目授業時に無記名で実施した。教育目標に関する設問への回答を見ると、全体としては例年と同様、多くの学生が「卒業後にしたいこと」や「学生時代にすべきこと」について授業内で考えることができ、また、身近な「学生生活」について、より考えることができたことが分かった。
- 学生アンケートについて、「とてもそう思う」「そう思う」の回答の割合を1回と15回で比較したところ、自己評価に関する項目「自分の意見を筋道立てて話すことができる」(88.0%→66.3%)、「自分の意見を文章でわかりやすく表現できる」(30.0%→66.9%)となり、授業を通してできるようになったと自己評価している様子が窺える。
- 授業の精緻に関する質問では、「少人数クラス」は役に立ちましたか』『他学部・他学科の学生との交流』は役に立ちましたか』『グループでの学習活動』は役に立ちましたか』の3項目で、「とてもそう思う」「そう思う」の回答の比率が授業実施8年間で最も高い数値(すべて90%以上)を示した。
- 「ために」になった」とする回答数(複数回答可)の各授業の比率を見ると、「新しい環境で他者と出会う」(2回)が52.7%、「自分や相手の大切さを知る」(10回)が49.2%、「これからの大学生活を描く」(14回)が47.6%で、この3授業が上位にあがる傾向は4年前から継続している。
- 担当教員向けアンケートでは、1年生にとって「ためになった授業」として、「大学職員に取材する」(9回)、「図書館にふれる」(8回)、「新しい環境で他者と出会う」(2回)、「明星大学を紹介する」(7回)が上位にあがった。
- 94名の学生がSA/TAとして授業をサポートし、6名の学生がSAコーチとしてSAをサポートした。
- 次年度に向けて「自立と体験1」の授業をより良く良くしていくため、授業内容等の改善については今後も継続していきたい。特に次年度改善すべき点は、①15回を通して出席し続ける意識付け、②SAの役割分担の明確化、③グループリーダー(明星教育センター教員)と担当教員との交流強化、である。

2. 実施結果

2.1 開講曜日・時間・設置クラス数等

1年生前期必修科目として68クラスを開講した。開講曜日・時間・設置クラス数は、金曜1限27クラス、金曜2限27クラス、土曜1限7クラス、土曜2限7クラスであった。

授業は、各学部学科専任教員41名、明星教育センター教員8名、及び非常勤講師4名が担当した。1クラスあたりの履修学生数は、30-36名であった。

2.2 履修者数

履修者数は2,148名(4月11日時点)であった。

2.3 出席率

平成29年度の出席率は、表2の通り86.5%で平成28年度に引き続き86%台となった。第15回は、77.7%と大きく下がったが、こうしたケースは今回が初めてである(図1参照)。

年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
出席率	86.7%	85.5%	85.2%	84.5%	85.1%	84.9%	82.7%
	86.5%						

表2 「自立と体験1」各年度の出席率

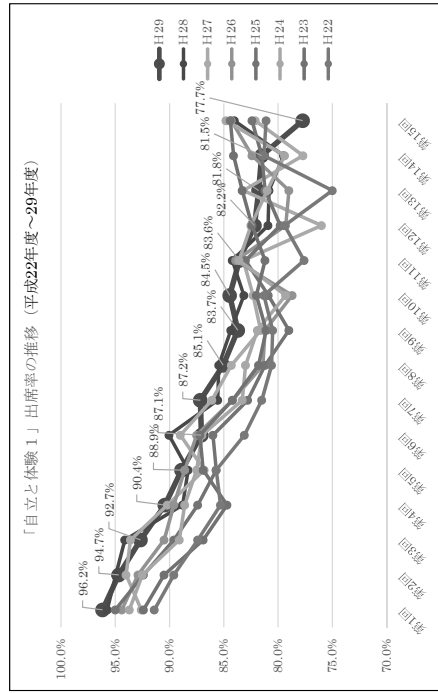


図1 「自立と体験1」出席率の推移

2.4 単位修得率

平成22年度以降の「自立と体験1」の単位修得率は表3のとおりである。平成29年度の単位修得率は94.0パーセントとなった。平成29年度は補習を実施しないため、確定版の単位修得率としては、平成28年度から1.1ポイントの低下となった。

表3 「自立と体験1」単位修得率

年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
単位修得率(正期授業)	93.9%	92.1%	91.3%	91.5%	91.0%	88.5%	89.9%
単位修得率(補習を含む)	95.1%	93.4%	93.6%	93.8%	94.0%	91.4%	93.9%
補習実施 せず							

2.5 担当教員向け研修

担当教員向けに、以下の事前研修(表4参照)を実施した。

表4 事前研修(事前説明会及び授業手法説明会)の概要	
事前説明会	授業手法説明会
日程 平成29年3月2日/15日2・3限 (同内容・どちらか1回参加)	平成29年3月2日/2017年3月15日4限(同内容・どちらか1回参加)
目的 授業のねらい・到達目標を理解する 全15回の授業内容・教案を理解する 授業運営のためのサポート体制を理解する	グループ学習について理解する 授業を担当するイメージをつかむ
内容 ①本日の目的と内容 ②開講挨拶 ③「自立と体験1」の特徴(VTR投影、授業の準備ポイント、7年間の実践の成果(学生アンケート等)) ④「自立と体験1」の意義(大学の教育目標との関連、外部からの評価、大学4年間の学習への効果) ⑤体系的キャリア教育プログラム ⑥教員の役割・サポート体制 <昼食・教員間交流> ⑦気になる学生への対応 ⑧教案の見方・授業の概要 ⑨グループワーク(実際の授業内での工夫の検証、経験者の工夫の共有)	①趣旨説明 ②グループ学習とは ③授業手法体験 ④スキル紹介と解説 ⑤振り返りの体験とまとめ

上記の研修の対象者は、事前説明会が全担当教員、授業手法説明会は初めて担当する教員と希望者である。欠席者は個別対応することで、参加率は100%となっている。事前研修は初年度から8年間継続して実施しており、教員アンケート等の意見を取り入れて、例年改善を重ねてきた。内容の充実、

平成 29 年 10 月 12 日・学部長会資料

定期的に回答した学生は、1 回が 74.8%、15 回が 74.5% であった。15 回でわずか下がったが、「とてもそう思う」の回答は、1 回 32.7%、15 回 39.5% と増加している。卒業後にしたいこと（進路）については、授業開始前から考えることが出来ていた学生にはさらに考える機会となったが、考えていなかった学生は変化しなかったのではと考えられる。自由記述欄には「将来のことについて深く考えることができず、1 年間の目標を明確にし、そのために何をやるかを考えるきっかけとなった」等の意見が示されている。

「学生時代にすべきことを考えていますか?」（図 3）の肯定的回答は、1 回 82.5%、15 回 87.2% であり、4.7% 増加した。「卒業後にしたいこと」に比べて「学生時代にすべきこと」は、授業を受講したことで肯定的に回答している学生の比率に変化が見られ、また数値も高い。自由記述欄には「明星大学について、自分自身の将来について学ぶことで、今後の大学生活をどのように過ごすかの目標を立てることができた」「曖昧だった大学生活もこの期間を通して振り返ることで、自分が何のために大学に来たか改めて気づくことができた」等の意見が示されている。

全体としては、例年と同様、多くの学生が「卒業後にしたいこと」や「学生時代にすべきこと」について授業内で考えることができ、また、身近な「学生生活」について、より考えることができたことが分かる。1 年前期の初年次教育科目としての成果が見られ、教育目標の達成度は高かったといえる。

3.2 学生の自己評価について

6 つの設問で学生に自己評価を尋ねている（図 4-図 9）。1 回授業時と 15 回授業時の「とてもそう思う」「そう思う」の肯定的回答の比率は、全体としてはここ数年と同様の数値を示している。

「敬意・関心をもって他者の話を聴くこと」については、90.1% の学生が「自立と体験」受講前からできていると考えており、15 回受講後も 90.2% と変わらない。一方当初は自信のなかった「自分の意見を筋道立てて話すこと」は 27.7 ポイント増加（38.6%→46.3%）、「自分の意見を文章でわかりやすく表現すること」は 26.3 ポイント増加（30.6%→56.9%）となり、授業を通してできるようになったと自己評価している様子が窺える。「自分の意見を筋道立てて話す」について、自由記述欄には「社会に出て必要自分の意見を、理由を踏まえて述べることや他者を理解し尊重することを学んだ」「自己主張をすることや思ったこと、考えを言葉にして発言することの大切さを実感でき、相手からも多様な意見を聞くことで新たな発見があった」等、「話す」ことと“聴く”ことを合わせて記述したのも見られた。

「明星大学の歴史や教育の精髄」（31.0%→45.9%）、「図書館の利用方法」（45.3%→68.8%）も理解できたこと回答する学生が増加しており、特に図書館は 53.5 ポイント増加と大きく変化した。

「規律を守って学習活動ができています」（91.5%→97.8%）は、23.7 ポイント数値を下げたっており、例年通り、学生の自己評価と後半の出席率低下との関連が考えられる結果となっている。

平成 29 年 10 月 12 日・学部長会資料

担当教員の負担軽減を図り、また担当教員同士の情報共有の内容を取り入れている。平成 29 年度の担当教員アンケートでは、25 人中 22 人が、内容が適当だったと回答した。具体的には「授業の狙いや目的が明確になった」「基本的な授業手法が確認できていい」「授業を構造的に体験できたので不安が少なくなった」という意見があった。適当でないという意見としては「経験者への説明はもっと簡潔でも十分」というものがあった。

2.6 SA/TA・SA コーチの運用に関して

(1) SA/TA

平成 29 年度は、開講 68 クラスについて 94 名の学生が SA/TA として授業のサポートを行った。授業にあたっては、平成 28 年度の反省（研修の実施方法も含めて、SA のあるべき姿を検討していくことも必要だろう）を踏まえ、SA/TA 研修の内容を改定して実施（平成 29 年 2 月 1 日/2 月 3 日/2 月 6 日 13:00～16:00、同内容・いずれも 1 回参加）し、授業の主旨と SA/TA の役割をしっかりと理解してもらい本年度の授業に臨んだ。

さらに平成 29 年度は、SA/TA、SA コーチ、及び明星教育センター教職員合同で、「SA 振り返り会」を実施（平成 29 年 7 月 28 日 18:10～19:40）した。「SA 振り返り会」の趣旨は、「SA の経験の振り返り」、「明星教育センターの授業や活動に対する理解促進」、「SA/TA 及び SA コーチの活躍に対する慰労」等であった。

(2) SA コーチ

平成 29 年度で 3 年目となった SA コーチに関しては、6 名の学生が SA コーチとして SA のサポートを行なった。SA コーチに対しては、4 月の授業開始前に SA コーチの役割と活動に関してミーティングを行い、活動の詳細について確認した。また、授業開始後は、7 月初旬に SA コーチ同士でサポートの仕方について共有するとともに、SA コーチとして活動していく上での問題点等を確認し、教職員からアドバイスを行いつつ活動を進めた。

3. 授業評価

授業改善を目的として、1 回授業時と 15 回授業時に、出席者に対して「自立と体験 1」オリジナルの学生アンケートを無記名で実施している。各設問の回答結果は、図 2-図 14 である（図の作成にあたっては記述なしの無効回答を除いた）。初年度（平成 22 年度）からの 8 年間の経過も交えて、教育目標の達成、学生の自己評価、学生の反応について考察する。

3.1 教育目標の達成度について

教育目標（明星大学に学ぶ学生としての自分を理解し、各自の理想や目的を明確にしておくこと）の達成度については、2 つの設問で尋ねている。

「卒業後にしたいこと（進路）を考えていますか?」（図 2）に「とてもそう思う」「そう思う」と旨

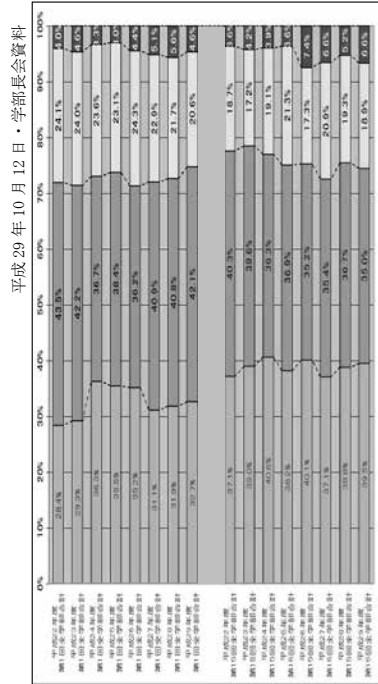


図 2 卒業後にしたいこと（進路）を考えていますか？

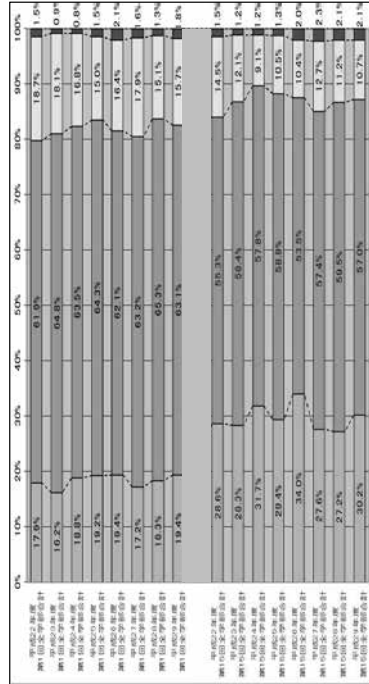


図 3 学生時代にすべきことを考えていますか？

■とても思う ■そう思う ■あまりそう思わない ■全くそう思わない

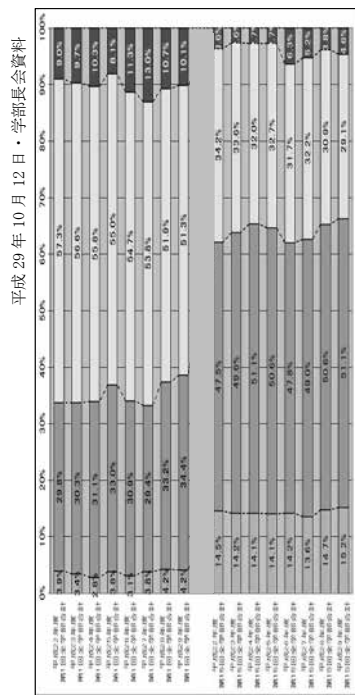
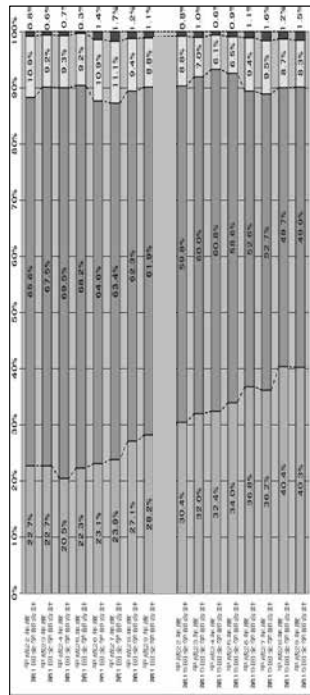


図 4 自分の意見を筋道立てて話すことができますか？



3.3 学生の反応

(1)授業の特徴に関する質問

「自立と体験1」の授業の特徴については5項目を尋ねている。「少人数クラス」は役に立ちましたか(92.5%) (図10)、「他学部・他学科の学生との交流」は役に立ちましたか(93.6%) (図11)、「グループでの学習活動」は役に立ちましたか(93.5%) (図12)、の3項目全てにおいて90%を超え、学生たちの「自立と体験1」に対する支持が高ことが分かる。また、この3項目は授業実施8年間で最も高い数値を示している。自由記述欄には「少人数だったため、自分から発言する機会が多く、積極性が身についた」「他学部・他学科の人と触れ合うことで自分と違う考え方や意見を知ることができ、そこからグループとして意見をまとめるため、物事を俯瞰的に見ることができるようになった」等の意見があった。

「ポートフォリオ」は役に立ちましたか(79.0%) (図13)、「提出課題に取り組みることにより学びが深まりましたか(79.6%) (図14)、この2項目についても80%近くの高い数値である。「自分の考えをポートフォリオに書き、それをグループで共有し、みんなの意見を聞くというのとはとてもなった」「常に目的を持って行動することができたのでポートフォリオがあつてよかった」等、授業の特徴を肯定的に捉えた意見が多く見られた。

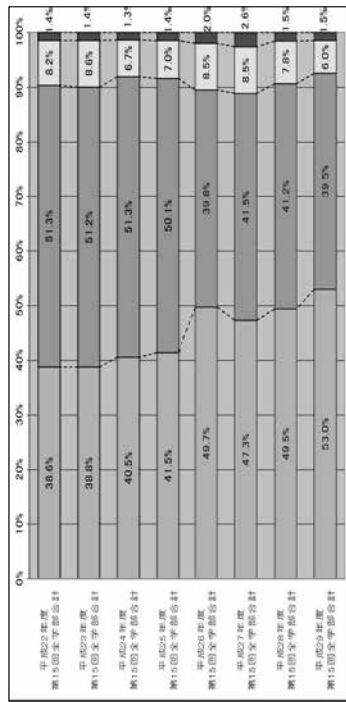


図10 「少人数クラス」は役に立ちましたか?

■とてもそう思う ■そう思う ■あまりそう思わない ■全くそう思わない

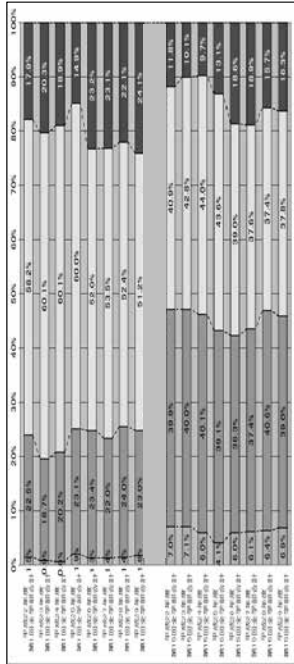


図7 明星大学の歴史や教育の特色を知っていますか?

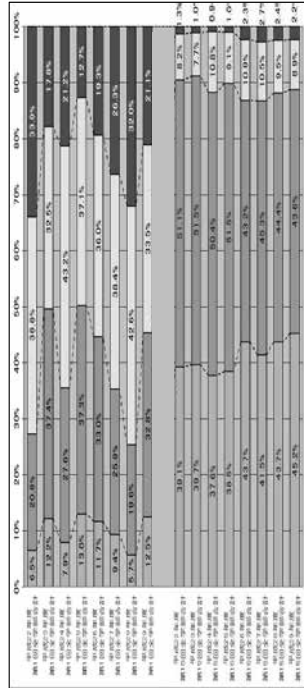


図8 大学の図書館の利用方法について知っていますか?

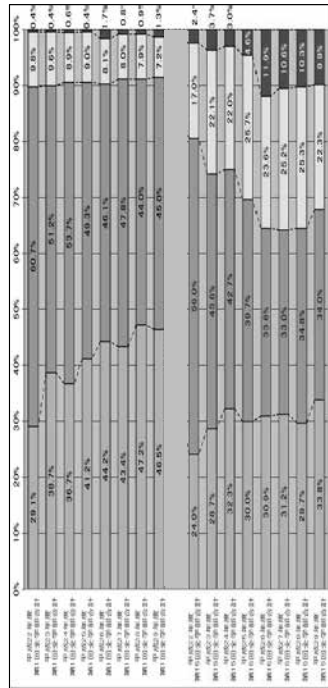


図9 規律を守って学習活動ができましたか? (細断次第や遅刻をしない、など)

■とてもそう思う ■そう思う ■あまりそう思わない ■全くそう思わない

平成29年10月12日・学部長会資料

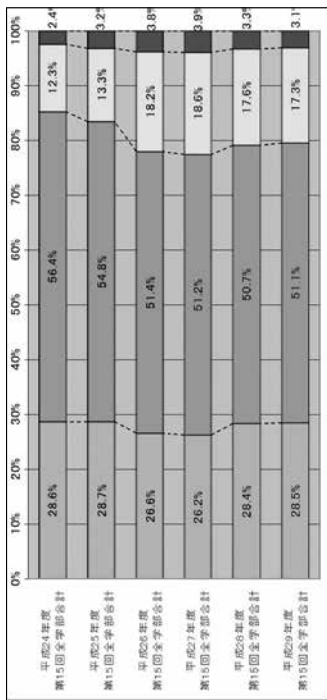


図14 提出課題に取り組みましたか?

■とてもそう思う ■そう思う ■あまりそう思わない ■全くそう思わない

② 「ためになった授業」

15回を通して「ためになった授業」とする回答から学生の反応について考察する(表1及び図15参照)。学生が「ためになった」と回答している授業は、15回総数で8,368を数え、一人当たりの平均回答数は4.9である。最初は、学部学科の異なる環境に不安を抱きつつも、授業を終えての自由記述では「他者と関わり、協力する活動はとてためになった」「自分の苦手なことを始めに認識し、終わりまでに少しずつ改善していったので充実した授業となった」等の意見が示されており、学生は「自立と体験1」がためになったと感じ、成長を実感している。

「ためになった」とする回答数(複数回答可)の各授業の比率を見ると、「新しい環境で他者と出会う」(2回)が52.7%、「自分や相手の大切さを知る」(10回)が49.2%、「これからの大学生活を描く」(14回)が47.6%で、この3授業が上位にある傾向は4年前から継続している(図15)。

回	授業名	回	授業名	授業名
第1回	オリエンテーション	第6回	明星大学を知る(合同授業、ローテーション授業)	ルールとマナーを考える
第2回	新しい環境で他者と出会う	第7回	明星大学を紹介する(ローテーション授業)	卒業生が心学ぶ
第3回	大学での学びを考える	第8回	図書館こぼれる(合同授業、ローテーション授業)	仕事と自分について考える
第4回	聴いて相手の理解する	第9回	大学職員に取材する(ローテーション授業)	これからの大学生活を描く
第5回	詠あいと体験する	第10回	自分や相手の大切さを知る(ローテーション授業)	未来の自分へのメッセージ

表1 第1回-第15回の授業名(甲種)

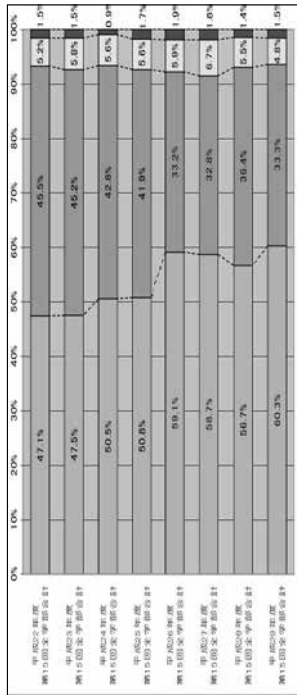


図11 「他学部・他学科の学生との交流」は役に立ちましたか?

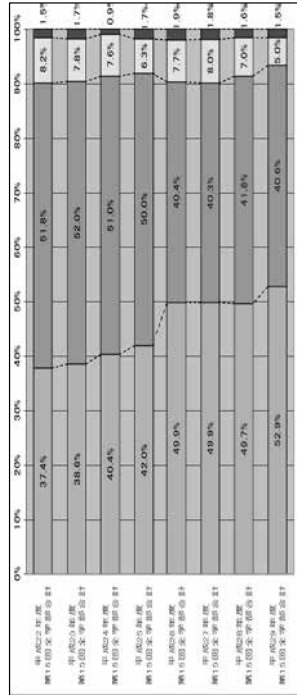


図12 「グループでの学習活動」は役に立ちましたか?

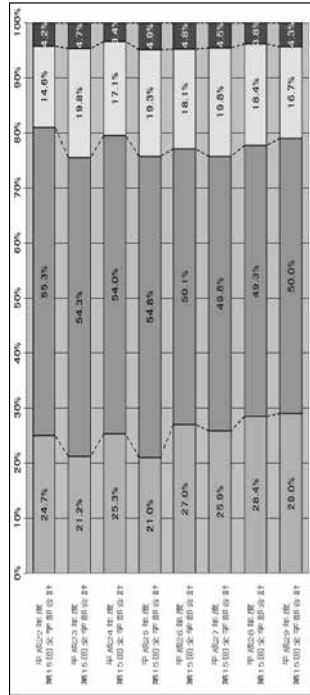


図13 「ポータルフォリオ」は役に立ちましたか?

■とてもそう思う ■そう思う ■あまりそう思わない ■全くそう思わない

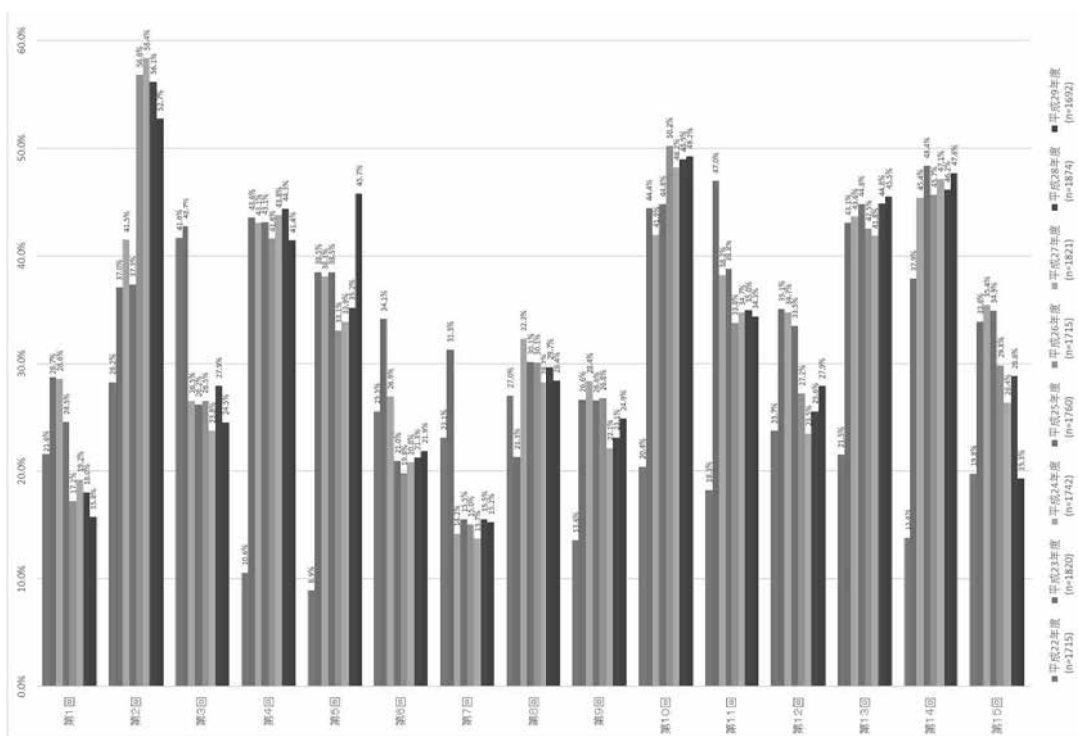


図15 「ためになった」と思う授業に関する回答の経年比較 (平成22年度～29年度)

平成29年10月12日・学部長会資料
各年度の割合は回答者のうち「ためになった」と回答した人の比率（無効回答を除いて計算した）

3.4 関係者による授業評価

受講している学生以外の関係者にも、授業終了時にアンケートを実施している。担当教員、SA/TA、職員インタビューに協力いただいた担当者に対するアンケート結果を抜粋し、授業評価について考察する。

(1) 担当教員

回答率47% (63人中29人)であった。学生の印象について、「当初は目標等が漠然としていた学生もいた。しかし授業の回数を重ねるたびに意欲が増し、授業終了時には多くの学生が、将来を見据えた展望を持つことができていた」(後半に、学生同士の会話が活発になり、意見表明などが積極的になっていった点は印象的)といった意見があった。

1年生にとって「ためになった」と思う授業のベスト3は、第9回「大学職員に取材する」24人、第8回「図書館巡り」22人、第2回「新しい環境で他者と出会う」7回(明星大学を紹介する)がともに20人であった。ためになった理由としては「他者の存在の重みを再認識した点で、ためになったと感じた」これまでに知らなかった理由として「協働作業を通じて、能動的姿勢の大切さを感じることができた」といった意見があった。第二節の第7回、第8回、第9回の授業は1年生やSA/TAのアンケートではポイントが低く、学生と教員とは「ためになる」という点について、視点の違いが見られた。

授業を担当してきてみてどうだったかに関する回答では、18人が「授業を担当することを楽しんだ」を並び、9人が「授業を担当することは大変だった」を選んだ。そのうち6人は面方を選んでおり、楽しいながらも担当するのが大変な授業であったようだ。また11人は「用意された教案のやり方を変えたり工夫したりして授業を進め」ていた。

(2) SA/TA

回答数は16人であった。1年生の変化については、「初めの頃は発言が少なかったが、次第に打ちとけ、積極的に発言するようになった」という意見が多く、この点は1年生自身の感想と重なっている。1年生にとって「ためになった」と思う授業では、第13回「仕事と自分について考える」、第14回「これからの大学生活を描く」、第15回「未来の自分へのメッセージ」をあげた人が11人で最も多かった。「自分の将来を見つめるいい機会だと思う」「自分自身を知り将来に向けてのキャリアデザインができる授業」といったコメントがあった。第15回は1年生のポイントは中程度で、SA/TAのポイントほど高くない。SA/TAが今の自分の考えとして「ためになる」と答えているのではと考えられる。自分自身の振り返りとしては、「授業補助を担当することは充実した体験だった」に13人、「担当したこと、自分自身の学びがあった」に10人が「はい」と答えている。ただし、回答率が17% (94人中16人)であることを考えると、「充実した体験で学びがあった」と感じた学生が、アンケートに回答している可能性は考えられる。

(3) 協力部署

回答数は9人であった。1年生の印象として、積極性や態度の良さを評価している記述が6名あり、

平成29年度勤務「自立と体験1」SAの説明会実施日及び参加者数

実施日	参加人数
平成29(2017)年2月1日(水)	33名
平成29(2017)年2月3日(金)	37名
平成29(2017)年2月6日(月)	45名
平成29(2017)年3月29日(水)【追加】	18名
平成29(2017)年4月7日(金)【追加】	4名
合計	137名

平成29年10月12日・学部長会資料

(6) 3年存続率(留年・編入)を3年ごと(3年連続)で3年になった者

年度	76.7%	74.8%	73.7%	79.5%	81.5%	85.0%	87.3%	88.5%	85.3%
進級率	76.7%	74.8%	73.7%	79.5%	81.5%	85.0%	87.3%	88.5%	85.3%

・各年度とも5月1日現在の在籍者数で算出

2. 「自立と体験1」担当教員について

(1) 「自立と体験1」担当教員数

	平成29年	平成28年	平成27年	平成26年	平成25年	平成24年	平成23年	平成22年	平成21年	平成20年
専任	45	46	45	45	45	45	45	45	41	41(※1)
明星教育センター	5	5	5	5	5	5	5	5	9	8
非常勤	1	1	2	2	3	3	3	3	3	4
合計	51	52	52	53	52	52	52	51	53	53

※1 後期専任教員として専任予定であるが、前期は都合により非常勤講師として担当した学部選出教員を1名含む

(2) 平成29年度「自立と体験1」担当教員向け事前説明会参加者

シラバス・ポートフォリオ事前説明会	対象者	参加者	3月5日(水)	3月15日(水)	説明会誌
授課科目に関する説明会	44人	44人	29人	12人	3人
新しくご所属頂く先生、希望者対象	28人	新規 18人 継続 10人	16人	9人	3人

(3) 「自立と体験1」代講件数

実施年度	代講件数(延べ数)
平成22(2010)年	25件
平成23(2011)年	31件
平成24(2012)年	29件
平成25(2013)年	15件
平成26(2014)年	20件
平成27(2015)年	15件
平成28(2016)年	12件
平成29(2017)年	13件

(4) 「自立と体験1」ランチャミーティング参加者人数

実施年度	参加者人数(延べ人数)
平成28(2016)年度	184
平成29(2017)年度	139

・平成29年度は16月9日(金)に「自立と体験1」公開講座を実施したため、ランチャミーティングは開催しなかった。

3. SA・SAコーチについて

(1) 「自立と体験1」SA人数、説明会参加者数

実施年度	SA人数	SA説明会参加人数(概算)
平成22(2010)年度	40名	—
平成23(2011)年度	52名	—
平成24(2012)年度	51名	—
平成25(2013)年度	68名	120名
平成26(2014)年度	83名	140名
平成27(2015)年度	92名	159名
平成28(2016)年度	102名	167名
平成29(2017)年度	94名	352名

・平成25(2013)年度より公募(説明会)開始。

平成29年10月12日・学部長会資料

(2) 平成29年度勤務「自立と体験1」SAの説明会実施日及び参加者数

実施日	参加人数
平成29(2017)年2月1日(水)	33名
平成29(2017)年2月3日(金)	37名
平成29(2017)年2月6日(月)	45名
平成29(2017)年3月29日(水)【追加】	18名
平成29(2017)年4月7日(金)【追加】	4名
合計	137名

(3) 「自立と体験1」SAコーチ

実施年度	SAコーチ人数(6名)	SAコーチ人数(4名)	合計
平成27(2015)年度	3名	2名	5名
平成28(2016)年度	3名	6名	9名
平成29(2017)年度	3名	3名	6名

・SAコーチは平成27(2015)年度より導入。

4. 学内協力部署・職員・学生について

(1) 「大卒課程」に該当する

① 「大卒課程」に該当する「対応部署(平成22(2010)年度、平成23(2011)年度は「大卒課程」)

実施年度	部署数	協力部署
平成22(2010)年度	5	教務企画課、学生サポートセンター、キャリアセンター、ボランティアセンター、国際教育センター
平成23(2011)年度	7	教務企画課、学生サポートセンター、キャリアセンター、ボランティアセンター、国際教育センター、情報科学センター、明星教育センター
平成24(2012)年度	12	教務企画課、学生サポートセンター、キャリアセンター、ボランティアセンター、国際教育センター、情報科学センター、総務課、広報課、調査センター、連携研究センター、連携教育センター
平成25(2013)年度		教務企画課、学生サポートセンター、キャリアセンター、ボランティアセンター、国際教育センター、情報科学センター、総務課、広報課、調査センター、連携研究センター、連携教育センター、明星教育センター
平成26(2014)年度	13	教務企画課、学生サポートセンター、キャリアセンター、ボランティアセンター、国際教育センター、情報科学センター、総務課、広報課、調査センター、連携研究センター、連携教育センター、通信教育部、明星教育センター
平成27(2015)年度		教務企画課、学生サポートセンター、キャリアセンター、ボランティアセンター、国際教育センター、情報科学センター、総務課、広報課、調査センター、連携研究センター、連携教育センター、通信教育部、明星教育センター
平成28(2016)年度	14	教務企画課、学生サポートセンター、キャリアセンター、ボランティアセンター、国際教育センター、情報科学センター、総務課、広報課、調査センター、連携研究センター、連携教育センター、通信教育部、明星教育センター
平成29(2017)年度	14	教務企画課、学生サポートセンター、キャリアセンター、ボランティアセンター、国際教育センター、情報科学センター、総務課、広報課、調査センター、連携研究センター、連携教育センター、通信教育部、明星教育センター

・上記以外に「図譜」に該当する「図譜」の図で、図譜職員の方より説明等のご協力をいただいております。

② 平成29(2017)年度「大卒課程」に該当する「各部署」参加人数(延べ人数)

部署名	学生サポートセンター	キャリアセンター	ボランティアセンター	国際教育センター	情報科学センター	調査センター
訪問予定グループ数	38	34	27	23	33	29
参加者数(延べ)	15名	13名	18名	8名	12名	10名

②平成 29 年度「自立と体験 1」実施報告

平成 29 年 10 月 12 日・学部長会資料

部署名	総務課	学生生活課	人事課	通商センター	国際センター	通信教育部	国際センター
参加予定 グループ数	24	20	27	26	11	5	25
参加予定 人数	10名	8名	9名	10名	7名	2名	11名

・グループあたりの人数は、標準で6名を想定

③平成 28 (2017)年度 「大学職員に課する」協力部署への事前説明会参加者数

開催日時	参加者
5月15日 (月) 15:00～16:00	4名
5月16日 (火) 15:00～16:00	6名

(2) 平成 29 (2017)年度 「自立と体験 1」ゲストスピーカー

実施年度	人数	学部/学科/学年
平成 29 (2017) 年度	3 名	教育工学教育学科 3 年 1 名、経営学部経営学科 3 年 1 名、デザイン学部デザイン学科 3 年 1 名

・平成 29 年度は、活動紹介の DVD は作成していない。

平成 29 年度後期科目「自立と体験 3」授業実施報告

Summary (概要)

- 平成 29 年度は、演習内容 (第 1～2 回：導入時)、教材 (第 5～6 回：問題解決事例) に一部改訂を加え、平成 28 年度と同じシラバス、教育内容で実施した。改訂した点については、担当した教員より概ね支持を得られた。
- 最終的な履修者は 194 名であった (全欠席者 8 名を除く)。平均出席率は 76.2%、単位修得率 83.8% (129 名) であった。
- 終了時アンケートによると、80%以上の学生が行動目標・到達目標を達成したと考え、85%以上が授業を通じた能力の伸長及び意識の変化を自覚し、98%が授業に満足をしていた。しかし自立と体験 4 を履修したい学生は過半数に満たなかった。
- 次年度への課題としては、問題解決技法に関する授業構成・教材の再検討、社会的な問題に対する意識・関心の醸成、社会人基礎力と授業内容との関連性の強化、授業構成再検討に伴うグループ活動減への対処が挙げられた。

1. 授業概要

1.1 教育目標

- チームで様々な課題や演習に取り組むことを通じて、
 - (1) 論理的に考え表現することを学ぶ。
 - (2) 問題を発見し解決することを学ぶ。
 - (3) 大学生活でも役に立つ「社会人基礎力」を伸ばす。
 - (4) 自分の持ち味を知り、将来のキャリアを考えるきっかけとする。

1.2 行動目標・到達目標

- (1) 自ら考えて行動し、主体的に学ぶ。
- (2) 問題や問題意識の持ち方を理解し、問題解決技法を身に付ける。
- (3) 社会に対する関心を高める。
- (4) 自分の思い、考えなどを適切に表現する。

1.3 授業内容

平成 29 年度は、平成 28 年度「自立と体験 3」の課題を受けて、演習内容・教材に一部改訂を加え、平成 28 年度と同じシラバス・教育内容で実施し、「明星大学独自のキャリア教育の確立に近づけていく」ことを目指した (授業内容：資料 2)。

主な改訂ポイントは以下のとおりである。

- (1) 文章作成スキルの学習の導入
全体的に論理的な文章を書く力が弱い点が課題であった。今年度は、論理的に考え、文章化する練習として、200 字演習 (授業の振り返り、宿題) を活用し、演習のテーマから「問い」をたてた後、文章化することを課した。
- (2) 社会人基礎力 (明星大学バージョン) と授業内容との関連性の強化
アセスメントを社会人基礎力に一本化し、社会人基礎力を活用したワーク、説明、測定を複数回設けることで、社会人基礎力に対する認知と活用を促進した。

(3) 問題解決技法 (第 5～6 回) 教材の検討
問題解決技法の教材については、平成 28 年度においても内容の検討を行ったが、まだ問題解決プロセスの理解と活用を促すには、事例のボリュームや難易度という点で課題があった。そこで、今年度は、問題解決技法 (第 5・6 回) の事例の内容と扱い方について検討した。事例を単純化することに加え、ワークシートで思考のプロセスを丁寧に追うことで、学生の理解を促した。

(4) ワークブックの改訂
利便性を考慮し、従前は各回に配付していたワークシートから、学習スキルに関する部分だけ抜き、ワークブックに集約した。

2. 実施結果

2.1 設置クラス数

2 年生後期科目として 8 クラスを開講した。開講時間は月曜 5 限・火曜 5 限・水曜 5 限・木曜 3 限・金曜 3 限とし、木曜 3 限は複数クラスを設置した。
授業は明星教育センターの 8 名の教員が担当した。1 クラスあたりの履修学生数は、15～25 名であった。

2.2 履修者数及び単位修得状況

開講に先立ち、授業内容告知のチラシを配布し、全学科に対して履修ガイダンスで授業内容の説明を行った。
前期履修登録時の履修者数は 194 名、最終的な履修者数は 154 名であった (全欠席者 8 名を除く)。最終的な履修者は、昨年 (188 名) より 34 名減少した。単位履修替えのある学科は、デザイン学科 (6 名/学籍番号 14.15 番代のみ)、国際コミュニケーション学科 (34 名)、経済学科 (71 名) であった。自由科目として履修した学生は 111 名であった。
単位修得率は 83.8%であった。履修者の所属学科及び単位修得状況の詳細は表 1 に示す。

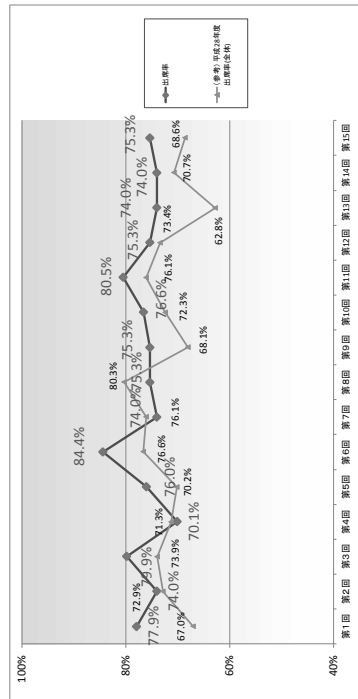
表 1 平成 29 年度学科別履修者数及び単位修得状況

学部学科名	総計	合格者数	単位修得率
理工学部総合理工学科電気電子工学系	10	7	70.0%
理工学部総合理工学科生命科学・化学系	1	1	100.0%
人文学部日本文化学科	5	4	80.0%
人文学部人間社会科学科	4	2	50.0%
人文学部心理学科	5	4	80.0%
人文学部国際コミュニケーション学科	34	32	94.1%
情報学部情報学科	4	1	25.0%
経済学部経済学科	71	65	91.5%
経営学部経営学科	9	2	22.2%
教育学部教育学科	2	2	100.0%
デザイン学部デザイン学科	9	9	100.0%
総計	154	129	83.8%

2.3 出席率

平均出席率は 76.2%、最高は 84.4% (第 6)、最低は 70.1% (第 4 回) であった (全欠席者を除く)。全体の昨年度 (62.8~80.3%、平均 72.6%) を上回り、安定的な出席状況が維持された。出席率の詳細は図 1 のとおりである。

図 1 平成 29 年度 出席率



3 授業評価

3.1 教育目標の達成

「行動目標・到達目標」に関し、終了時の授業アンケート(資料 1)において達成度を尋ねた。Q5「自ら考えて行動し、主体的に行動することができた」、Q6「問題や問題意識の持ち方を理解し、問題解決技法を身につけた」、Q7「社会に関する関心を高めることができた」、Q8「自分の思い、考えなどを適切に表現することができた」のいずれにおいても、「とてもそう思う」「そう思う」を合わせた肯定的な回答が 80%を超えており、多くの学生が本授業の行動目標・到達目標を達成したと考えていることが示された。

3.2 能力の伸長及び意識の変化

「獲得した能力や意識」について、履修時に期待していたことがどの程度達成されたかを 4 件法で尋ねた。その結果、Q9「スキルが身につく」、Q10「意識や行動が変わる」、Q11「大学生活や将来の役に立つ」のいずれの項目についても「達成された」、「やや達成された」の合計が 85%を超えており、多くの学生から肯定的な回答を得られた。スキルや意識の具体的な内容は、自由記述において「文章を書くスキル」、「考える力」、「意見を伝える」、「コミュニケーション」、「実行力」、「問題解決スキル」、「客観的に捉える」、「積極的に取り組む」、「人と関わる」、「先のことを考えて行動する」、「将来を視野に入れる」等が挙げられた。

3.3 学生の反応

授業に対する満足度について、終了時の授業アンケートにおいて 4 件法で尋ねた。Q1「あなたはこの授業に出席してよかったと思うか?」に対して「良かった」、「やや良かった」を合わせた回答が 98%、Q3「あなたはこの授業を後輩にも勧めますか?」に対する「大いに勧めたい」、「勧めたい」の合計が 97%であり、学生の受講後の授業評価はかなり高いものであった。

その理由として自由記述より、「グループで取り組む力が身についたり、自分の欠点が見えたり、自分の自分を知って、この先どうすれば良いか少し見えて来ると思うから」、「この授業は社会に出た後にも必要になる能力を上げてくれると思うから」、「人と関わることが増え、将来に向けてスキルも身につくから」、「得るものが多いから」、「問題解決の仕方とか」、また、自分と向き合うことが多く、それは大切だと思ったり、「将来役に立つことを教えてくれる」、「意見を言うのが得意な人でも皆の前でやれば改善点が見つかりましたし、不得意な人でも積極的に参加している力に付くと思う」等の理由が挙げられる。なお、否定的な回答として「卒業のため単位にならないから」という指摘があった。

取り組み状況については、Q2「あなたはこの授業にどのように取り組まれましたか?」において、非常に積極的に取り組めた」が 27%、「積極的に取り組めた」が 46%、「まあまあ取り組めた」が 26%、「出席したがあまり積極的に取り組まなかった」は 1%であり、概ね積極的に授業に参加していたことが伺える。

一方で、Q4「来年度の自立と体験 4 を履修するか」という問いに対しては、65%の学生が、「どちらともいえない」と回答している。「履修したい」は 33%で過半数を割っている。理由として「来年は更に実践的なものを学んで就活を意識づけたい」という意見もある一方で、「その他の履修との兼ね合いがあるので、なるべく履修したい」、「役に立つとは思いますが忙しくなりそうなので悩んでいる」等が挙げられており、次年度の生活が予測できない中で、さらに上位科目の履修は決めかねている様子が伺える。また、「卒業単位に含まれないから」という回答もあり、卒業単位に含まれないことが、学生の履修に影響を及ぼすことが示された。

3.4 教員から見た評価

担当教員からは以下の指摘があった。

- (1) 平成 28 年度からの改善点について
 - 第 1~第 2 回において、社会人基礎力を活用したワークを取り入れたこと、第 5~6 回(問題解決技法)の教材を進め方を大幅に改訂したこと、ワークブックの内容を改訂したことについては、「進めやすかった」、「社会人基礎力の理解が進んだ」という意見が示され、概ね肯定的であった。
 - 一方で、「全体を通して盛りだくさん、積み残し感がある」、特に第 5~6 回については、「丁寧な展開は良かったが、時間に取まらぬ」、「教材や進め方について改善が不十分。学生が消化不良であった」という意見が示され、授業の構成や進め方について更なる検討が必要である点が明らかになった。
 - 論理的な文章を書く練習として、200 字演習(宿題)の課題設定を「問い」の形にする試みについては、「同じ型を繰り返すことで慣れていった」、「しっかりと書けていた」という意見がある一方で、「うまく活用できなかった」、「定着できなかった」という意見も示された。

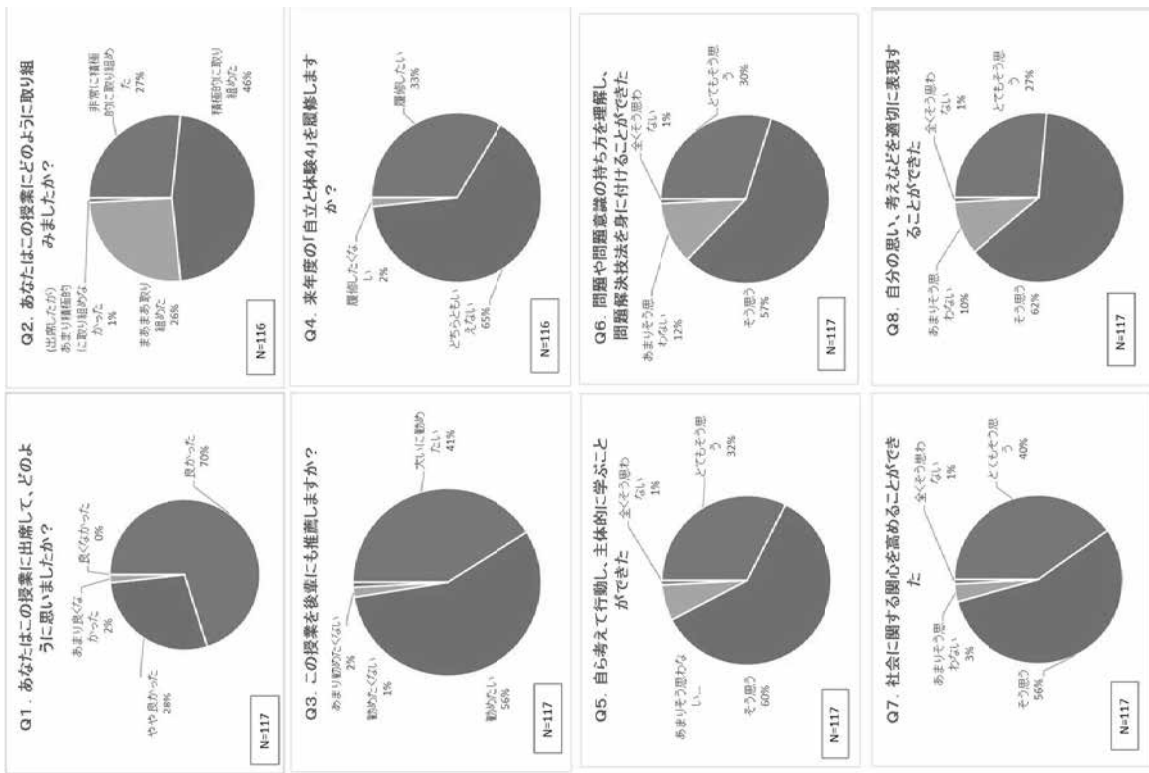
(2) その他の授業に関する事項

- ・アイスブレイク等で各種フレームワークを複数回展開した。今後につながる能力となった。
- ・問題解決プロセスの理解と定着が難しかった。問題を設定する感覚を伝えきれない。WHY と HOW の使い分けに混乱し、他の場面への応用ができなかった。
- ・社会的な問題として設定される内容が陳腐であった。大きな話に寄り勝ちである。
- ・ワークブックの持参が徹底されず、教材を十分に活用できなかった。
- ・ワークシート類は細かく設定されて使いにくい部分もあった。
- ・社会人基礎力とキャリアフレームとの関係がつけにくかった。
- ・ブレゼンは面白いが、問題解決とのつながりが難しかった。

(3) 学生の状況

- ・グループでよいものを作ろうという意識が醸成できた。
- ・関心姿勢、フィードバックが回を追う毎に良くなっていった。1 分ブレゼンから 5 分を理解するという面も見られた。

資料1 2017年度「自立と体験3」授業終了時アンケートの結果（1/2）



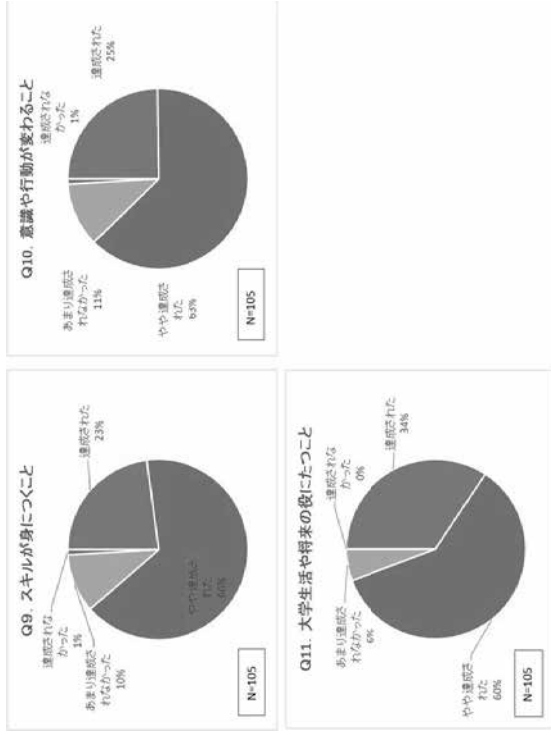
- ・ディスカッションで自己開示が進んだ。
- ・成長を感じる学生が多かった。
- ・授業の取り組み姿勢の温度差がある。年度、クラスによっても学生の取り組み姿勢や出席状況はだいぶ異なるため、クラスの状況に応じて柔軟に対応できるプログラムが必要である。
- ・課題にまじめに取り組むが、身近なものへの興味を持たず、社会に目を向ける学生が少ない。
- ・文章力に差が大きい。

4. 次年度に向けての課題

- (1) 問題解決技法の理解と定着を図る方法の検討
 - ・問題解決の技法として取り入れる内容を広げ、段階的に学べるように授業を構成する。
 - ・複数の技法を活用して、問題を解決できるようにする。
 - ・例題に取り組むことで、使い方を理解できるようにする。
- (2) 社会的なテーマへの意識・関心を高める取り組みの検討
 - ・授業の順序を変えて、社会的な問題に先に取り組み授業構成にする。
 - ・社会的な問題について複数資料を示し、考える形式にする。
 - ・「与えられた」社会的なテーマを、学生が自分ごととして考えられるように考慮する。学生にとって、実感知のあるテーマを選定し、問題意識を喚起する（テーマ、資料の選定、及びワーク等の構成等を検討）。
- (3) 社会人基礎力と授業内容との関連の教科
 - ・授業内容と社会人基礎力の育成との関連が、学生も教員も意識できるような構成にする。
- (4) チーム活動の担保
 - ・「社会の問題」の取り組み方は、29年度までと変わるが、チーム活動が行われるように授業設計に工夫をする。

以上

資料1 2017年度「自立と体験3」授業終了アンケートの結果(2/2)



資料2 平成29年度 自立と体験3 授業内容一覧

回	授業名	授業のねらい	主な授業内容
1	オリエンテーション 授業全体の概要	・「自立と体験3」に興味を持つ ・授業で身につく力を理解する	1. 授業のねらいと内容の紹介 2. 自立と体験3の特徴に触れる ・自己紹介ワーク 3. 自立と体験3の特徴を知る 4. 振り返りアンケート
2	チーム活動技法 チームで話し合い発表する	・チームで協力して活動する体験をする ・チームで話し合い、発表をまとめるポイントを理解する ・チーム活動に必要なポイントを理解する	1. ウォーミングアップ 2. 大学生活を振り返る演習 3. ティスカッションと発表演習 4. チーム活動の振り返り 5. 振り返り
3	表現技法1 自分の意見を述べる		1. ウォーミングアップ 2. 個人目標設定 3. 論理的に話す 4. 意見を述べる 5. 振り返り
4	表現技法2 話し合って結論を出す	・他者と異なる意見を述べることに慣れる ・相手の意見を整理して聞く ・お互いの意見をもとに合意形成を行う	1. ウォーミングアップ 2. 話し合って結論を出す 3. プレゼンテーションの基本 4. 振り返り
5	問題解決技法1 問題解決を体験する	・問題や問題意識の持ち方を理解する ・問題解決を体験する	1. ウォーミングアップ 2. 問題の種類と問題意識の持ち方 3. 問題解決法体験(ケース「タッチラグビーサークル内部分裂問題」) 4. 振り返り

6	問題解決技法2 問題解決のプロセスを学ぶ	・問題解決のプロセスを理解する ・問題解決の手法を使ってみる	1. ウォーミングアップ 2. 問題解決のプロセス(講義) 3. 問題解決プロセス実践(GW) 4. チーム活動の振り返り(チャットリスト使用) 5. 振り返り
7	問題解決演習 <基礎>1 現状の理解・原因の特定	・問題解決の基礎を、演習を通して学ぶ ・個人の問題を取り上げて具体的に考える	1. ウォーミングアップ 2. 個人の問題を解決する 3. 個人プレゼンテーション 4. 11分間のプレゼンテーションの実践 5. 問題の認識・現状の理解・原因の特定 6. 振り返り
8	問題解決演習 <基礎>2 解決策の構想	・問題解決の基礎を、演習を通して学ぶ	1. ウォーミングアップ 2. 個人の問題を解決する 3. 個人プレゼンテーション 4. 問題の認識・現状の理解・原因の特定 5. 解決策の構想 6. 振り返り
9	問題解決演習 <基礎>3 問題解決演習<基礎>の振り返り	・問題解決の基礎を、演習を通して学ぶ ・自分たちで主体的に問題を話し合う	1. ウォーミングアップ 2. 個人プレゼンテーション 3. 問題解決演習基礎の振り返り 4. 問題解決演習基礎の準備 5. 振り返り
10	表現技法3 社会的な問題を話し合う	・見方を変えて議論を深める体験をする ・自分たちで主体的に問題を話し合う	1. ウォーミングアップ 2. 個人プレゼンテーション 3. 社会的な問題について意見を述べる 4. 議論を深める体験をする 5. 振り返り
11	問題解決演習 <発展>1 現状の理解・原因の特定	・問題解決技法を活用してみる ・自分たちで主体的に授業に取り組む	1. ウォーミングアップ 2. 個人プレゼンテーション 3. 問題解決プロセス1(問題認識、現状理解) 4. 振り返り
12	問題解決演習 <発展>2 解決策の構想	・問題解決技法を活用してみる ・自分たちで主体的に授業に取り組む	1. ウォーミングアップ 2. 個人プレゼンテーション 3. 問題解決プロセス2(原因特定、課題設定) 4. 振り返り
13	問題解決演習 <発展>3 解決策のプレゼンテーション	・問題解決技法を活用してみる ・自分たちで主体的に授業に取り組む	1. ウォーミングアップ 2. 個人プレゼンテーション 3. 問題解決プロセス3(解決策構想～計画策定) 4. 振り返り
14	問題解決演習 <発展>4 解決策のプレゼンテーション	・問題解決技法を活用してみる ・プレゼンテーションを実践してみ ・チームの中での自分を振り返る	1. ウォーミングアップ 2. 個人プレゼンテーション 3. 問題解決プロセス4(プレゼンテーション) 4. 問題解決演習発表の振り返り 5. 振り返り
15	キャリアデザイン 自分の持ち味を探る 今後の行動を考える	・キャリアデザインの考え方を知る ・自分の持ち味を知る ・今後の行動計画をたてる	1. ウォーミングアップ 2. 授業全体を振り返る 3. 今後の行動計画をたてる (3年次の抱負、今後の行動計画)

以上

学部長291012-8

平成 29 年 10 月 12 日・学部長会提出資料

平成 29 年 10 月 4 日

学長 大橋 有弘 殿

平成 29(2017)年度全学共通社会的・職業的自立促進科目

「自立と体験 4」実施報告書

「自立と体験 4」担当副学長
明星教育センター長 菊地 滋夫

Summary (概要)

- ・本年度は 7 クラスで開講し、履修者は 120 名であった。(昨年度は 113 名)
- ・単位修得率は 96. 6%(昨年度は 83. 9%)、出席率は 82. 4%(昨年度は 79. 4%)であった。
- ・受講者アンケートでは「この授業によって自己理解が深まり、将来や就職に向けて考えるきっかけとなった」と多くの学生が回答している。
- ・昨年度からの課題として「自己と社会と仕事とをそれぞれ結節させるようなプログラムの改善については、『様々な仕事理解が進んだ』や『自分にあった職業を探したい』への肯定的回答が大幅に上昇したことから進捗したものと考える。
- ・一方で卒業後の進路についてイメージ出来ている学生は過半数に達していないことから、動機づけや問題意識の醸成には繋がったがまだまだ自分の行動に落とし込むレベルには至っていない学生も多いと考えられる。
- ・次年度は、全体の授業構成のバランスを再考し、グループワークを通じての協同学習の充実及び学生自身が、将来に向けてどのような一歩を歩んでいきたいのかをベースに、社会人スタートに向けて 3 年後以降の具体的な行動につながるようなプログラムの充実等のバランス(気づきの増幅と個の計画化)を考えたい。

平成 29 年 10 月 12 日・学部長会提出資料

1. 授業概要

1.1 教育目標

- (1) 自己実現を目指し、職業を持つ社会人として自立できる能力と意欲を育てること。
- (2) 生涯を通じての継続的な学習意欲と就業力を育てること。
- (3) キャリア教育の最終段階として、具体的に自らの将来像、仕事、就職について考える力と意欲を身につけること。

1.2 行動目標・到達目標

- (1) 自らの課題を設定し、主体的に学ぶこと。
- (2) 就職活動の前提となる意識とスキルを身につけること。
- (3) 社会人の考え方に触れ、働くイメージや就業観を身につけること。
- (4) グループでの話し合いを通じて、自己を見つめ自己表現力を鍛えること。

1.3 授業内容

平成 29 年度は、各授業の繋がりが分かりやすくなるように毎回の授業の最初にその日の授業内容の説明を行った。(図 1 参照。全 15 回の授業内容詳細は、資料 1 を参照。) その他、昨年度からの主な変更点は下記の通りである。

- ・学生自身が将来に向けてどのような一歩を歩んでいきたいのか、自己と社会と仕事とをそれぞれを結節させるようなプログラムの強化。
- ・「社会人の働く理由」の考察を通じて、仕事の意味や社会との接点を多角的に考えるワークの充実。
- ・就職活動を控え自ら業界や企業調査を行う手法についてキャリアアセスメントやネットワーク情報の活用に加え本年度から受講者全員に対して『業界地図』の配付。

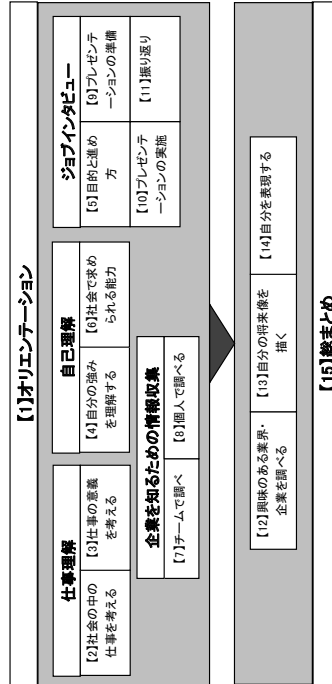


図 1 「自立と体験 4」授業内容

課題に丁寧に向き合うことができ充実した内容ができた反面、多様性に欠け、学生相互の刺激が少ない面が見られた。20 名を超えるクラスでは、多様な意見が出て、学生同士のやりとりが多くできた反面、教案に沿った進め方を重視すると教員側の個々の学生の把握やアドバイスの難しい側面もあった。

- ・ 基本的文章力を鍛えるために外部講師に依頼し提出レポートの添削をおこなった。
- ・ 本年度から評価ポイントを細分化したことで学生にとって評価基準が判りやすくなった。しかし「一度きり」且つ「具体的な改善指導の場」がないことによる効果が限られた。

4. 次年度に向けて

次年度の授業実施に向けて、下記の 3 点について今後検討をしていきたい。同時に、授業アンケートの項目や活用の見直しを行い、受講者レベルや志向を勘案したプログラム再構築を図るきっかけづくりとしていきたい。

(1) クラス運営の弾力性について

前年同期にクラス人数のばらつきが授業に与えた影響については前述の通りである。そもそも学生が履修時間を選択するためクラス人数の平準化には限界がある。来年度に向けては、クラス人数のばらつきを前提として、各授業の最終成果の共有化をはかりつつ担当教員が弾力的な授業運営を行うことを推進していきたい。(本年度同様、協同学習に支障をきたすような少人数の場合は受講時間の変更を依頼することもある。)

また、全体の履修登録者を増やす取り組みについても今後何ができるかの検討も引き続きしていきたい。

(2) グループワーク等協同学習による学びについて

本年度、社会における仕事と自分自身が働くこととの結節点を持たせる取り組みについての充実を図り、個人ワークや相互の発表からの気づきの幅は広がったが、「チームで割り上げる」「ディスカッションを深める」等の機会が少なくなかった結果、リーダーシップ発揮の場面や論理思考を深める場面が弱かった。

(3) 3 年後期以降の行動につながるプログラム

アンケートの結果や最終回のワークを見ると就職活動に向けての現状課題認識や意欲には繋がっているものの、まだまだそれらが「将来のために今何をすべきか」ということには繋がっていない学生も多く見られる。

以上の課題解決に向けて、次年度は、全体の授業構成のバランスを再考し、グループワークを通じての協同学習の充実及び学生自身で将来に向けてどのような一歩を歩んでいきたいのかをベースに、社会人スタートに向けて 3 年後期以降の具体的な行動につながるプログラムへの充実等のバランス(気づきの増幅と個の評価)を考えたい。

以上

(3) 獲得したい意識と能力

この授業を通して伸びてほしいと思うスキルについての質問(複数回答)では、聴く力(19%)、プレゼン力(17%)、情報収集の仕方(14%)、チーム活動(13%) インタビュの仕方(12%)が高かった。

また、この授業に関わらず現状有する社会人基礎力の授業第 1 回と第 15 回の社会人基礎力自己判定比較では発信力・意思決定力・振り返りの力のポイント伸長が顕著であった。

(4) その他

卒業後の進路は、イメージできていないと回答した学生が 44%と、半分以上の学生が卒業後の進路についてイメージできていなかった。またこの夏休みに 77%の学生がインターシップに参加したいと回答している。また「この夏休み、インターシップ以外で就職活動のための計画していることがあるか」については「ある」との回答は 26%にとどまり、まだまだ具体的な行動につながっていないことが窺える。インターシップ以外での夏休みに取り組みたいこととして、筆記試験やSPI、資格取得のための勉強などがあがっていた。

受講のきっかけ(複数回答)については、「就職活動に不安があった」と回答した学生が 27%と最も高く、次に「自立と体験 3 を受講したから」と回答した学生が 26%、自分の可能性を伸ばしたかった」と回答した学生が 18%であった。

3.2 教員からの評価

担当した教員から授業内容や運営面について以下の指摘があった。

(1) 授業内容について

- ・ 第 3 回「仕事の意義を考える」では、社会人の働く動機をロールモデルとして提示したことで、自分自身の働く理由を考える参考になったようである。

・ ジョブインタビューの取り組みについては、自分の興味のある仕事や業界についてインタビューをするために依頼者探しや実施計画に時間をかけた学生が多かった。自分で計画し、アポイントを取り、インタビューをし、プレゼンをするという一連の流れを通して主体的に取り組み意識が醸成されていた。

また、メンバーの発表にも関心を持ち相互に意見や質問を交わす中で、自分の興味領域の仕事以外への関心も高まったようである。

- ・ 第 7 回「企業を知るための情報収集」については、与えられた課題企業について、各種の情報源からグループで協力して情報を集め、組み合わせるワークを行ったことで多面的な企業理解につながったようだ。また学生に配布した『業界地図』が好評であった。

一方で、仕事に関する自己の志向が固まらないうちに、自分事として仕事を探すにどのような情報が必要なのか、どこでどのような情報を収集していかイメージがわきにくいようであった。

(2) 運営面について

- ・ クラスにより履修者数のばらつきがあったことにより、少人数クラス(7 名)では、

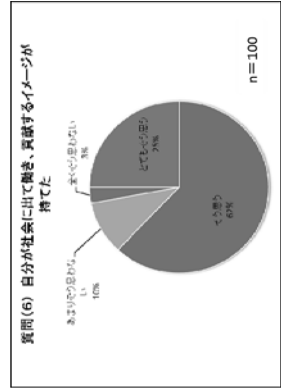
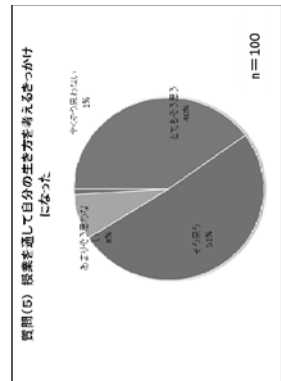
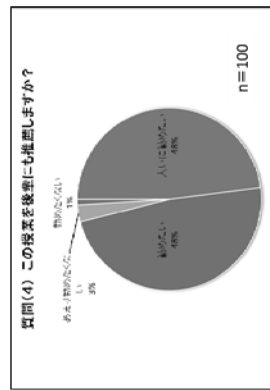
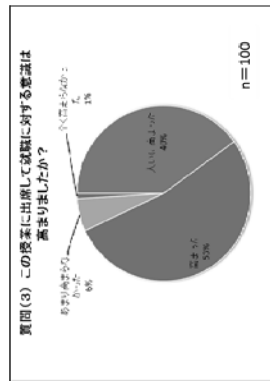
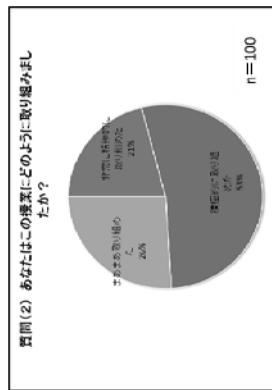
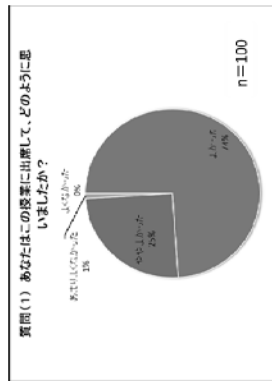
【資料 1】 1. 平成 29 年度「自立と体験 4」授業内容

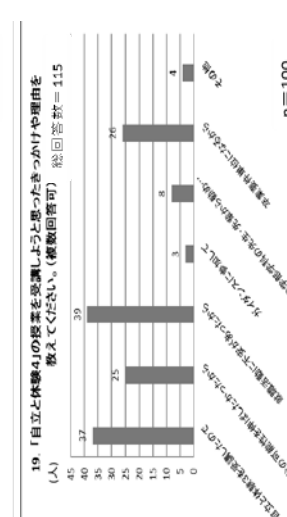
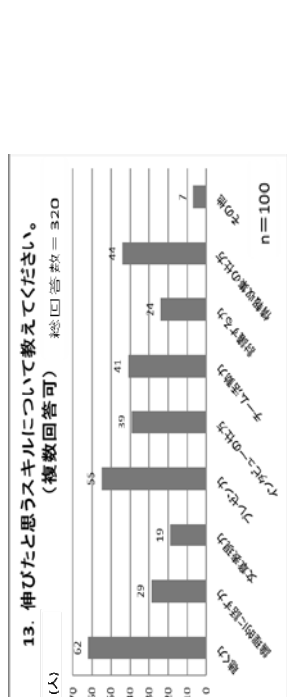
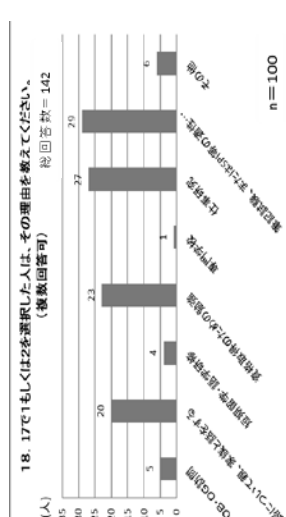
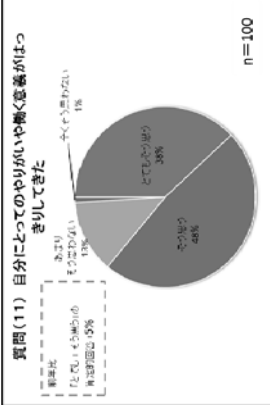
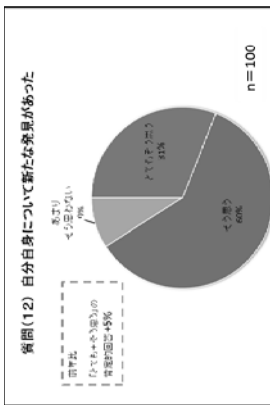
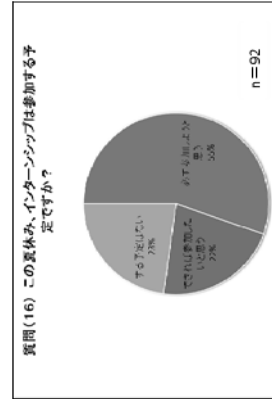
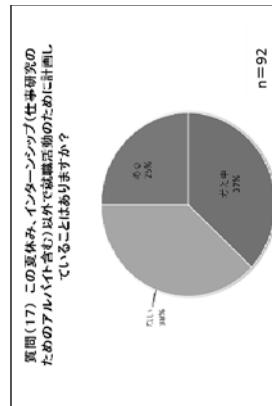
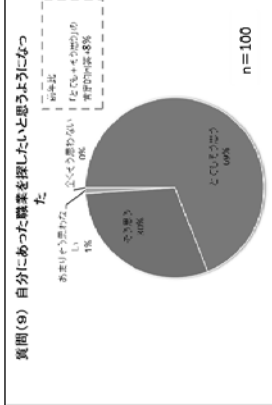
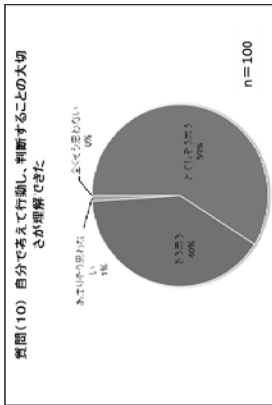
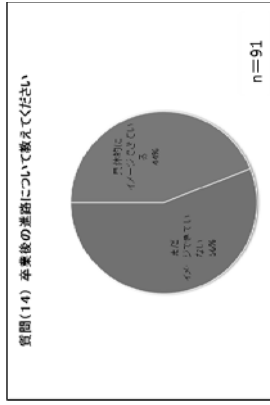
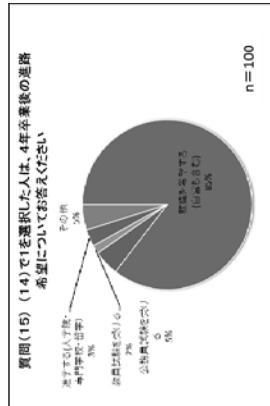
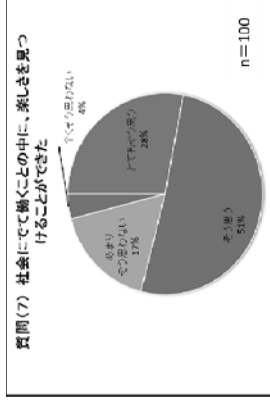
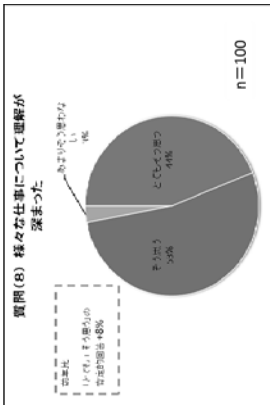
回	授業名	内容
1	オリエンテーション 【授業全体の概要】	ねらいを理解する ゴールをイメージする
2	社会の中の仕事を考える	社会と仕事の繋がりを知る 社会の中の仕事を考える
3	仕事の意義を考える	自分が仕事をすることについて考える
4	自分の強みを理解する	自分の強みを理解する 他者との違いから特徴を見出す
5	ジョブインタビュ-1 【目的と進め方】	質問力をつける ジョブインタビュ-の手順を考える
6	社会で求められる能力	社会で求められる能力を理解する 働く上での自分の持ち味の現状を知る
7	企業を知るための情報収集 【チームで調べる】	情報収集の方法を知る 企業や仕事について理解する
8	企業を知るための情報収集 【個人で調べる】	
9	ジョブインタビュ-2 【プレゼンテーションの準備】	プレゼンテーションの基本を理解する プレゼンテーションの準備
10	ジョブインタビュ-3 【プレゼンテーションの実施】	様々な人の仕事観を探る 準備して行うプレゼンテーションを体験する
11	ジョブインタビュ-4【振り返り】	ジョブインタビュ-を振り返る
12	興味のある業界・企業を調べる	主体的に情報収集する 業界・企業の多様性を知る
13	自分の将来像を描く	自立した社会人として将来像を具体的に描く
14	自分を表現する	現在の自分を表現する 将来の自分を表現する 模擬面接を体験する
15	総まとめ	今後の方向性を考える

【資料 2】 2. 平成 29 年度「自立と体験 4」アンケート結果

第 15 回目に、今後の就活フォロー希望者を確認するため、記名式でアンケートを実施した。履修者 120 名のうち、回答者は 100 名だった。また、図の作成にあたり、無回答者は除いている。

なお、昨年度と±5 ポイント差がある項目については、コメントをつけている。





2 実施結果

2.1 開講曜日・時間・設置クラス等

2017年度も1クラス開講(後期金曜3限)とし、2名の教員による分担で実施した。それにより、昨年度学生アンケートでも評価の高かった「多様性のあるクラス状況」を確保した。今年度は当初113人が履修登録を行った。そのため、昨年のSA(学部3年生)に引き続き既修者からSAを採用しようとして複数回の募集を試みたが、応募者がおらず実現できなかった。代わりにTA(修士2年生)を採用した。

2.2 履修者数

後期の履修訂正期間を経て、履修者数は115名(2016年度77名)となった。詳細は以下表1の通り。
履修者115名中、15回全欠席者6名、除籍者1名を除いた実履修者数は108名(2016年度67名)である。108名の学年別内訳は、1年45(26)名、2年36(15)名、3年27(20)名、4年5(6)名であった(括弧内は2016年度人数)。
また自由科目であるが、国際コミュニケーション学科および心理学科は、科目の読み替えを行っているため、卒業単位に認定される。単位認定される2学科の履修者は51名で実履修者の47.2%(2016年度47.7%)、それ以外は57名であった。

(表1 履修者の詳細)

学部学科	1年	2年	3年	4年	合計	4月末
理工	3				3	6
国際コミュ		18	23	5	46	37
人	9	1			1	1
文	6(3)	(3)	1	20	11(3)	61
福祉実践	3				3	7
情報		1			1	0
経済	14(1)				14(1)	3
教育	1	2			3	3
経営	11(1)	15(2)			26(3)	45
デザイン	2				2	4
心理	5				5	4
合計	45(5)	38(2)	27	5	115(7)	113

※()内の数字は、15回全欠席者7名(うち1名は期中除籍者)に当た人数。

2.3 出席率

平均出席率は71.7%(2016年度75.2%、2015年度77.7%)で、開講3年で最も低くなった。最高は86.1%(第2回)、最低は56.5%(第11回)であった。出席率の詳細は図1参照。昨年度は第10回以降は70%を切ることなく安定していたのに対して、今年度は全体に変動が大きかった。

単位読み替えのある学科のみの出席率は84.2%(2016年度82.3%)、それ以外の学科は60.5%(2016年度68.

8%)であった。単位読み替えのある学科は、第1回、第5回以外は、すべて80%以上の出席率を保っており、特に最終回が94%と最高値だった。それに対して、単位読み替えのない学科は、特に後半の出席率が低く、50%を切った回が3回あった。このことが全体の出席率を押し下げた原因となったと考えられる。

2018年2月15日
明星教育センター

授業実施報告書「キャリアデザイン1」(2017年9月～2018年1月)

Summary (概要)

- ・今年度の「キャリアデザイン1」は、1クラスで開講し履修者は108名であった(全欠席者除く)。平均出席率は71.7%、単位読み替えのある学科のみの出席率は、1回、5回を除き80%以上を維持した。単位修得率は75.9%(82名)であったが、単位読み替えのある学科98.0%に対して、その他の学科は56.1%であった。
- ・終了アンケートでは、授業の到達目標達成について、意識の醸成、キャリアデザインに関する知識・方法の獲得は、90%以上の学生が、学習内容の日常生活での活用は81%の学生が肯定的に回答した。授業に出席してよかったと答えた学生は95%、この授業を先輩に推薦したいと答えた学生は95%と、満足度も高かった。
- ・全体として、学生たちは、興味のある心理やコミュニケーションやキャリアについて学び、自分を見つめ直し、欲活や将来に向けて前向きな気持ちになった。また、他学年や他学部の人と沢山話すことができ、その体験を楽しみ、自分のためになると感じていた。
- ・本年度への課題として、①授業内容のブラッシュアップ、②意欲の差のある学生への対応が挙げられる。それにより授業内容、グループワークの質を高め、学生の主体的な学びを深めたい。

1 授業概要

1.1 教育目標

- (1) キャリアデザインの理論学習に基づき、キャリアの考え方を知る
- (2) 個人ワーク、グループワークを行い、自身の勤労観・職業観を育成する
- (3) 社会に出て働くことの様々な側面について知る

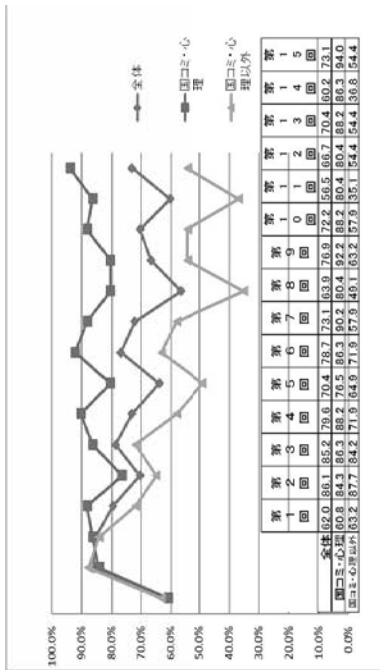
1.2 行動目標・到達目標

- (1) 卒業後に社会人として活躍していくために必要な意識が醸成される
- (2) キャリアに関する知識や理論を学び、自身のキャリアを考える方法が身につく
- (3) キャリアについての考え方を、他者に説明できる

1.3 授業内容(前年度からの変更点)

- (1) 2016年度を終えるの課題としては、①学習内容の日常生活への活用の促進、②意欲の差のある学生同士のグループワーク実施の工夫、③履修人数(クラスサイズ)への対応、④事前学習(自宅学習)の強化をあげた。
- (2) 大きな変更点としては、学習全体の継続性を考慮し、「ライフステージとキャリア」「アサーション」の授業の順番を変更した。
- (3) 学習内容の日常生活への活用の促進のために、まず学習内容をその後の授業内で活用する機会を増やした。
- (4) TAを採用し、大人数でのアクティブラーニングの進行や意欲の差のあるグループへの介入などに、より積極的に関わってもらった。
- (5) 授業とレポートにより運動するように、レポート課題を出題した授業回でレポート作成に関するグループワークを取り入れた。

図1 出席率



2.4 単位修得率
 単位修得者は82名で、全欠席者を除く単位修得率は75.9% (2016年度77.6%、2015年度84.6%)であった。

単位読み替えのある学科の単位修得率は98.0 (87.5) %、単位読み替えのない学科は56.1 (68.5) %となり、単位読み替えのある学科とそれ以外では42 (19) ポイントの差があった(括弧内は2016年度)。今年度は、単位読み替えがあるかどうかによる差が非常に大きかった。出席率にも大きな差があり、全欠席者もすべて単位読み替えのない学科であり、学生の授業への取り組み態度により、単位修得率にも差が出たものと考えられる。

3 授業評価

第15回授業内で、今後の授業改善のための終了時アンケート(記名式)を実施した。回答者は77名(2016年度49名、2015年度20名)であった。アンケートをもとに学生による授業評価を見ていく(アンケート項目によっては学生の記載漏れがあったため、項目ごとの回答者数で%を算出している)。

3.1 教育目標の達成

行動目標・到達目標に関し、達成度を4件法で尋ねた。
 Q5「キャリアに関する知識や理論を知り、自分のキャリアを考える方法が身についた」に「4:十分に達成された」「3:割と達成された」と肯定的に答えた割合は96% (2016年度94%)であった。同様に肯定的な回答はQ6「社会に出て働くことの様々な側面について理解し、卒業後に社会人として活躍するために必要な意識を養成することができた」91% (2016年度96%)、Q7「授業で学んだ知識を他者に説明したり、日常生活で活用できるようになった」81% (2016年度82%)となった。

全体の傾向は昨年と特段大きな変化はないが、全ての項目で「とてもそう思う」の割合が増えている。一方「あまりそう思わない」との回答も一定数あり、クラス内の学生の評価にばらつきが大きかったと考えられる。

Q8「学んだこと、身についたこと、自由記述」には、「グループワークにより積極性やコミュニケーションが上がった」「将来について考えるきっかけになった」「視野が広がった」「違った視点で物事をみる」「計画性」等の記述があった。

3.2 学生の満足感・反応

(1) 学生の受講満足感
 Q1「この授業に出席して、どのように思いましたか」には95%、Q4「この授業を履修しても推薦しますか」には65%が肯定的に回答し、授業に対する満足度は非常に高かった。「とても良かった」と回答した学生たちは自由記述欄に「自分の興味のある心理やコミュニケーションの話を聞けてかつ将来についても考えられたから」「キャリアの骨組などを学べたから」「自分について見つけて見直すことができた」「魔法や将来に向けて前向きな気持ちになれた」「将来のことを考える時間がたのしくて自分のためになった」「他学年と他学部の人と沢山話すことができた」など満足感の感じられる記述をしている。

また、Q2「この授業を履修して良かった点はどのようなことですか」(複数回答)を見ると、授業内容が将来の役に立つと思つたを66.2%の学生が選択している。「グループ活動」は45.5%、「色々なスキルが身についた」は35.0%、「学部学科混成」「授業内容が面白かった」は約30%が選択した。昨年度に比べると「グループ活動の授業形態がよかった」を選んだ学生が約15%増えている。

後輩に推薦する理由の自由記述は、「自分のためになる」「将来の役に立つ」等の記述が多かった。「意志の弱い後輩には勧めづらい」「自分に興味があったら取れば良い。そうじゃないなら迷惑だから取らないで。楽単だと思つて取ると、割とレポート辛い」等の記述もあった。しっかり取り組む必要がある授業だと感じている様子が分かる。

第1回授業時にも「履修した理由」を尋ねている。「将来の役に立ちそうだが」が最も多く68.4%、「色々なスキルが身に付きそう」43.4%、「授業内容が面白そう」が32.9%であった。一方「曜日や時間の都合がよかった」も50%強の割合が選んでいた。複数回答のため一概には言えないが、この意識の差が、出席率や単位修得率のばらつきにつながったのではないかと考える。

(2) 授業に対する取り組み

Q3「この授業にどのような取り組みましたか」は「非常に積極的に取り組めた」「積極的に取り組む」が70% (2016年度63%)であり、自由記述には「授業内容に興味があったり、グループワークを楽しんだりしている様子がみられる」「まあまあ取り組めた」は27% (2016年度37%)で、自由記述には「人見知りだったので」「ちゃんと意見をグループの人に出せたときがなかったため」といったグループワーク形式の授業になじめない様子や、「真面目にとりくまない人もいるため」等のグループワークの質に問題を感じている様子が見られた。

(3) 授業内容・進め方について

Q9「授業内容」(各回の授業テーマ・授業内で取り上げた理論の内容や量・教材)は回答者の全員が肯定的に回答したが、Q11「授業の進め方」(各回の授業構成・グループワークの内容・時間配分等)は、7%が「あまりよくなかった」と回答した。自由記述を見ると、「グループワークの時間が短い」「リアクションシートを書く時間が短い」「座席指定はもつとパラバラでよい」「後から(遅れて)来る人の対応」等の指摘があった。

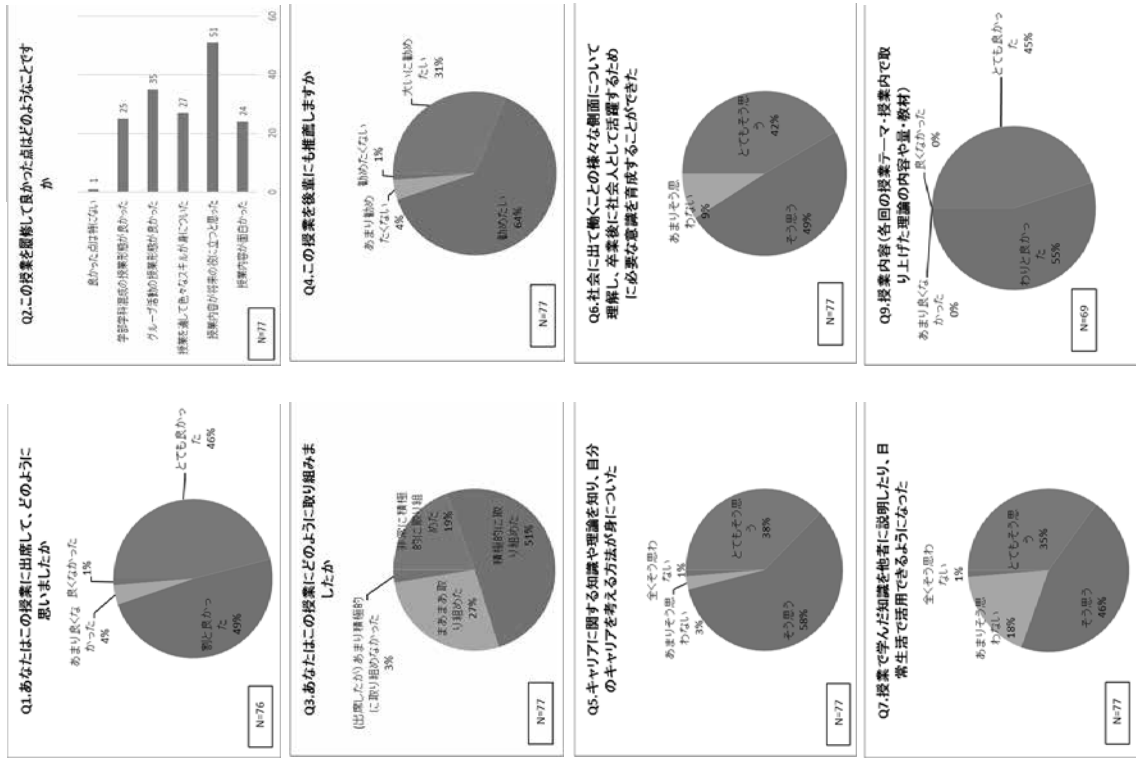
Q10「良かった授業回(複数回答)」では、「第8回モチベーション」「第9回働く上でのストレス」を50%以上の学生が選択した。次いで「第13回自分の働き方を考える」「第15回今後の計画を立てる」「第7回意思決定」と続き、これらはすべて30%以上の学生が選択している。

Q12「良かった授業の進め方」では、「グループワーク」は71.9%、「アイスブレイク」は59.7%の学生が選択している。次いで「個人ワーク」41.8%、「講義」35.8%となった。

Q14「講義と演習のバランス」は「今のままで良い」が85%、Q13「クラスの人数(クラスサイズ)」は「ちょうどよい」が60% (2016年度65%)だった。クラスサイズは、昨年度の67人に対して、今年度は108人と1.5倍以上の人数であったが、学生の反応は殆ど変わりがなかった。

以上、授業内容、進め方、クラスサイズとも、昨年に引き続き学生の評価を得ることができたと言えることから、基本的な構造は、来年度も同様が良いと考えられる。

資料 1 2017 年度「キャリアデザイン 1」授業終了時アンケート結果(1/2)



3.3 教員から見た授業評価
(1) 学生の様子
全体として、学生たちは授業内容に興味を持ち、演習等にも積極的に取り組んでいた。卒業単位に配み替えない学生のうち単位修得できた半数の学生たちも熱心な取り組みだった。「僕は単位修得ではなく、自分に役立つかスキルを獲得したいという思いでこの科目を履修しました。実際に役立つことばかりで勉強になりました」のアンケートの記述からも意欲が分かる。
意欲が高いからこそ、グループの編成によって質の高いグループワークが出来ないと、その点が不満につながる様子もあり、特に友人同士の馴れ合いに対しては「何とかしてほしい」といった意見も聞かれた。

(2) 授業内容
授業の順番を変えたことにより、授業全体につながりが出来、学習内容をその後の授業に活かす等、学生が学びやすくなった。「ライフステージとキャリア」と「人の生涯にかかわる発達」が連続したことで理解度が高まった。また「アサーション」を早めに行うことで、授業内でも「アサーションを意識してグループワークに取り組む」ことが出来た。このように授業内で学習内容を活用することで、授業外での知識の活用を意識させることができた。

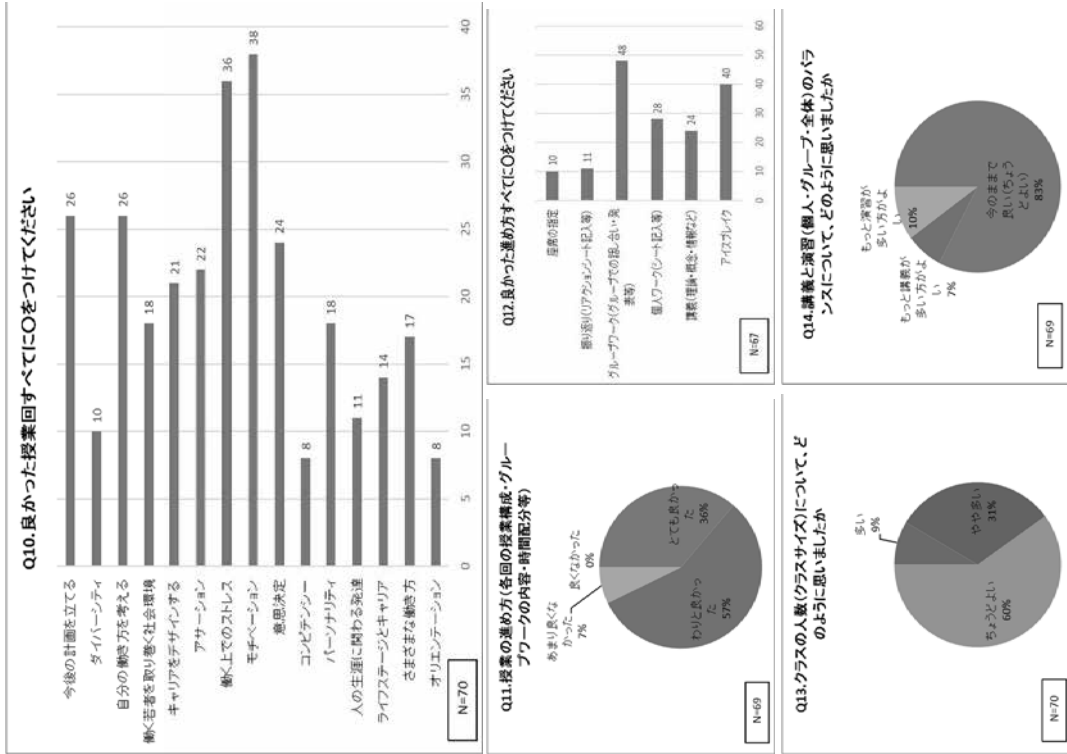
(3) 授業の進め方
クラスサイズは昨年の 1.5 倍となったが、基本的な授業の進め方は、昨年同様で問題なかった。今年度は、さらにさまざまな工夫が有効性を持って実施できるよう、復教職員・TA が協力しながら授業を進めた。たとえば、昨年度は、番号が入った配付資料を学生が選んでしまい、友人同士同じグループになることがあった。今年度は資料配付時に TA が選与することで、操作が出来ないようにした。
運刻ざりざりに来る学生への対応が難しく、そのためうまくグループが組めないことがあった。この点は改善が必要と考える。

4 次年度に向けての課題
4.1 授業内容のブラッシュアップ
授業に対する学生の評価は高いものの、「良かった授業回」というアンケートであまり取り上げられない授業回もあるため、再度授業内容をブラッシュアップし、より学生にとって有益な授業としたい。具体的には、知識や概念を学習したことが、「活用できる」「役立つ」と感じる仕掛け等が考えられる。

4.2 意欲の差のある学生への対応
グループワークを取り入れた授業であることから、グループ内に意欲の差のあるメンバーがいるが、学生の学びの質や満足度を下げることになる。前述のとおり「質の高いグループワーク」に対する学生のニーズは高い。この点は継続して改善が必要と考える。グループの組み合わせによっては、日ごろ意欲が高くない学生が熱心に取り組むこともある。グループで縛るだけでなく、学生がモチベーションを高める機会を提供することで、グループワークの質を高める働きかけができればと考える。
さらに、今年度も「履修したものの途中で脱落し後半は授業に出なくなつた学生」もいたことから、初回授業のオリエンテーション等で学生たちに正確な情報を伝え、授業のねらいと学生とのミスマッチがないようにすることも必要と考える。

以上
添付資料：1. 2017 年度「キャリアデザイン 1」授業終了時アンケート結果
2. 授業実施内容一覧

資料1 2017年度「キャリアデザイン1」授業終了時アンケート結果(2/2)



※Q8は記述欄のため、グラフはありません。

資料2

2017年度	「キャリアデザイン1」授業内容
担当	主な内容(ワーク)
1 9/8	オリエンテーション ・頭の中をアクティブにして学ぶ ・「キャリアデザイン」を定義する ・働く若者を取り巻く社会環境
2 9/15	さまざまな働き方 ・「仕事」「働くこと」からイメージすること ・目的から見る仕事の8つの側面 ・労働(職業)価値観尺度
3 9/22	ライフステージとキャリア ・身近な大人の人生の役割を考える(ライフキャリア(ホー)・あなたの人生の役割を考える(現在から将来へ))
4 9/29	人の生涯に関わる発達 ・人の一生における発達を考える ・大人とは、大学生とは ・大学入学後の私の変化
5 10/6	バーンナリテイ ・エゴグラムによる自分理解 ・バーンナリテイの特徴をつかむ(長所と短所・短所のリフレーミング)
6 10/13	コンピテンシー ・自分のなりたい職種に特徴的な「できる人」の条件 ・基礎力の観点で汎用能力をセルフチェックする
7 10/20	意思決定 ・私の意思決定プロセスの分析 ・ケーススタディ: 進路選択に悩む友人へのアドバイス
8 10/27	モチベーション ・モチベーションの高い人の行動や考え方 ・モチベーションのもとを探そう(モチベーションをあげるためにできること)
9 11/10	働く上でのストレス ・あなたのストレス対処方略(コーピング)を知ろう ・あなたのサポーターを知ろう ・私のストレス分析シート
10 11/17	アサーション ・アサーションとは ・アサーティブ、非主張的、攻撃的な表現 ・考え方のクセ・伝え方を工夫する(私メッセージ)
11 11/24	キャリアをデザインする ・過去の経験振り返る ・今の自分を見つめなおす ・大きな夢(キャリア)の方向性を描く
12 12/1	働く若者を取り巻く社会環境 ・データの見方 ・データから考える ・データ活用のグループワーク・発表
13 12/8	自分の働き方を考える ・働き方に関する考え方やその変化を探る ・社会の現実を知る ・自分の考えを表現する
14 12/15	ダイバーシティ ・ダイバーシティの考え方を知る ・考え方の多様性を体験する(「はたから」カード演習)
15 1/19	今後の計画を立てる ・自分のこれからを考える

授業実施報告書「キャリアデザイン2」(平成29年度後期)

2.2 履修者数
後期の履修訂正期間を経て、履修者数は16名となった。詳細は以下表1の通り。

履修者16名中、15回全欠席者を除いた履修者数は15名である。
本授業は、「1年次、2年次の履修を推奨する」(「社会的・職業的自立促進科目群」)について第2次審申(平成27年2月12日)科目であるが、今年度の学年別履修者は、2年9名、3年6名であった。
また自由科目であるが、デザイン学科は科目の読み替えを行っているため、卒業単位に認定される。

(表1 履修者の詳細)

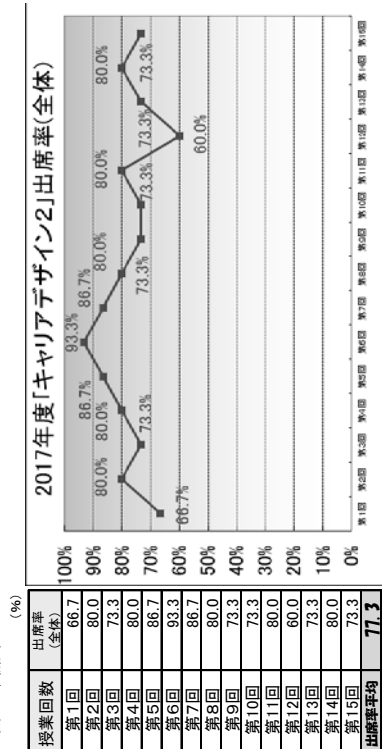
学部学科	2年	3年	合計
理工		1	1
国際コミュニケーション	4	5	9
人文	1		1
心理	2		2
経営	1		1
デザイン	1		1
合計	9	6	15

※除籍者1名を除く。

2.3 出席率

平均出席率は77.3%であり、2016年度(70%)と比べ上昇した。最高は93.3%(第6回)、最低は60.0%(第12回)であった。出席率の詳細は図1を参照。第1回、第12回を除いては全て70%以上を維持し全体的に安定した出席率で推移した。

図1 出席率



※履修者16名のうち除籍者を除いた15名で算出しています。

Summary (概要)

・今年度の「キャリアデザイン2」は、1クラス開講し履修者は15名であった(全欠席者除く)。
平均出席率は77.3%であり2016年度(70.0%)と比べ上昇し、最後まで安定した出席率で推移した。
・終了時のアンケートによると、授業の到達目標達成について、「社会で働くために必要な職業や労働に関する基礎知識の習得」、「卒業後に社会人として活躍するために必要な意識を養成すること」について全ての学生が肯定的に回答した。また、受講満足度も高く、受講した全ての学生が後輩に推薦したいと回答した。
・学生たちの授業への評価は、授業内容が社会に出てから役に立つ内容を具体的に学べたことや、お金のという視点で自分の将来を考えるきっかけとなった、ということと非常に高いものであった。
・今年度は、授業の順序を入れ替えたことやブレゼンテーションの進行を学生に任せただけでなく、学生のブレゼンテーションの質が深まり、授業への参加の意識が高まった。
・次年度の課題として、①専門家講師の変更、②受講者数を増やす取り組みが挙げられる。

1 授業概要

1.1 教育目標

- (1) 社会で直面する問題についてのケースワークを行い、現実的態度を身につける
- (2) チーム活動で多様な考えにふれ、勤労観、職業観を育成する
- (3) 社会に出て働く上で必要な基礎知識を学ぶ

1.2 行動目標・到達目標

- (1) 職業に就いて働いていくために必要な職業労働に関する種々の基礎知識を習得する
- (2) 各テーマについて、チームで自律的に学習することにより、主体性、当事者意識、現実的能力を身につける

1.3 授業内容(前年度からの変更点)

- (1) 学生が、主体的に授業に取り組み姿勢を身につける内容構成を検討した。具体的には、①ブレゼンテーションでの進行役を学生に任せ、②ブレゼンテーションへの準備など、学生自ら進める度合いを増やす等。
- (2) 前年度はブレゼンテーションの準備時間が1コマだったのに対し、今年度は2コマに変更し、準備時間を増やした授業構成とした。

2 実施結果

- 2.1 開講曜日・時限・設置クラス等
2017年度は1クラス開講(後期金曜2限)、1名の教員で実施した。

- 2.4 単位修得率
単位修得者は11名で、除籍者を除く単位修得率は73.9%（2016年度64.0%）であった。
- 3 授業評価
第15回授業内で、今後の授業改善のための終丁時アンケート（記名式）を実施した。回答者は11名であった。アンケートをもとに学生による授業評価を見ていく。
- 3.1 教育目標の達成
行動目標・到達目標に関し、達成度を4件法で尋ねた。

Q5「職業に就いて働いていくために必要な職業や労働に関する様々な基礎的知識を習得することができた」に「4:とてもそう思う」、「3:そう思う」と肯定的に答えた割合は100%であった。Q6「社会に出て働くことの様々な側面について理解し、卒業後に社会人として活躍するために必要な意識を育成することができた」に「4:とてもそう思う」、「3:そう思う」と肯定的に答えた割合も100%であった。また、Q7「その他学んだこと、身につくこと」についての自由記述には「グループ活動により集団の中で自分らしく振る舞うこと」「在学中も人脈を広げることができた」「ブレゼン、さまざまな法律、お金の使い方」「伝えたいという気持ち」などが記載されていた。

昨年度は同様のアンケートを実施していないため、比較対象がないが、数値を見る限りでは、ほとんどの学生が行動目標・到達目標に関して達成したことがわかる。また、後述のアンケート結果や授業後の感想などから、学生は学んだ内容が卒業後社会に出てから遭遇する可能性のある諸問題の役に立つこと、今後の人生に役立つこととあることとへの認識もあるように見受けられる。その他、チームワークや自己表現、プレゼンテーション能力もこの授業を通して身についたという意見がQ7以外のアンケート項目でも見られた。

3.2 学生の満足感・反応

(1) 学生の受講満足感

Q1「あなたはこの授業に出席して、どのように思いましたか」、Q4「この授業を後輩にも推薦しますか」には100%が肯定的に回答し、授業に対する満足度は高いものとなった。また、Q2「この授業を履修して良かった点はどのようですか」（複数回答）では、「2:授業内容が将来の役に立つと思った」が82%、「3:専門家の話を聞き知識が得られた」が73%、「1:授業内容が面白かった」が64%であった。さらに、Q4の記述回答では「単位にならないうけど、役に立つので」という内容に対する高い評価も見られた。

これらの結果を見ても、授業内容への関心の高さや満足度が高いことが見て取れる。Q1の自由記述でも、「将来に役立つ」、「主体性やブレゼンのやり方が学べた」、「専門家の生の声が聞けてよかった」という意見があり、授業内容の評価や学生の肯定的な反応が見取れる。

(2) 授業に対する取り組み

Q3「あなたはこの授業にどのように取り組みましたか」への回答は「4:非常に積極的に取り組み」、「3:積極的に取り組み」合わせて100%となっている。その理由について、「自分の意見をそれなりにグループ内で言えた」、「コミュニケーションが苦手な私がグループワークにしっかりと取り組み始めたから」、「本などから知識を得る努力をしたから」など積極的に授業に参加したことを自覚的に記述している回答が目立つ。

(3) 授業内容について

3つのテーマについての評価は（3テーマ）全てが「4:とても良かった 3:わりと良かった」という肯定的回答が100%であった。特に第3回「人生に関わるお金」については「4:

とても良かった」だけで64%という高い割合となっている。法律や労働問題もそうだが、人生におけるお金の問題、お金をキーワードに人生を考えることに対する関心の高さがここに表れている。

Q8a 働くことに関わる法律の自由記述では「アルバイトと社員の違いがよく理解できた」、「労働に関する法律の知識を学べたから」、「ブラック企業の特徴を知ることができたから」と具体的な現学的な視点で働くことや働くことに関する法律を学べたようである。Q8b 社会に出る時に必要な法律と知識の自由記述では、「法だけでなく、会社独自の支援制度が存在するところがある」と知れたから、「女性の問題は男性の理解が必要だかわかった」と制度や労働問題だけでなく、社会的な視点に気づいた点などが挙げられる。

Q8c 人生に関わるお金の自由記述では、「お金の大切さがあった」、「人脈が自分の仕事や生活につながることを知ったから」、「人生に必要なことをお金の面から見て学べた」など、ただ単に人生においてお金が大事というだけでなく、お金を通して自分の人生を考えたり、単にお金だけでなく人脈や人との関わりが人生において大事であることなど、新しい視点で人生を考えていることがわかる。

3.3 教員から見た授業評価

(1) テーマに対しての学生の関心

「これらの学びがなければ、ブラック企業の問題も産休・育休などの制度も知らず、言い訳になって働いていたのではなかろうか」、「法だけでなく、会社独自の支援制度があることを知ることができた」という感嘆の感想・意見が多くなる学生から聞かれた。これら学生の意見を聞くと労働に関する法律、労働問題に関する法律及び制度、そして生きて行く上でのお金の話という3つのテーマに対してほぼ全ての学生が関心を示し、多くの学びがあったと考えられる。次年度に向けての課題でも触れるが、この内容の授業は内定をとった4年生にも薦められる内容だと考えている。

(2) 学生の主体的・積極的な学びの姿勢

今年度は昨年度の課題を踏まえ、4回の授業の順序及び内容に改訂を加えた。（昨年度は①事前学習 ②専門家の講義 ③プレゼンテーション準備、④プレゼンテーション。今年度は①専門家の講義 ②③講義内容の確認及び課題の確認、資料の収集プレゼンテーション準備、④プレゼンテーション）その結果、学生が課題の事前協議が十分に行え、調査や関連資料の収集の時間ができ、より深い内容の学習が進んだようである。

また、学習の内容が深まり、幅広くなったことによりプレゼンテーションの内容、プレゼンテーション資料のレベルも上がっている。

さらに、他グループの発表に対しての質問が出ることも多く、質問内容が課題の本質に迫るものも散見された。

3.4 その他

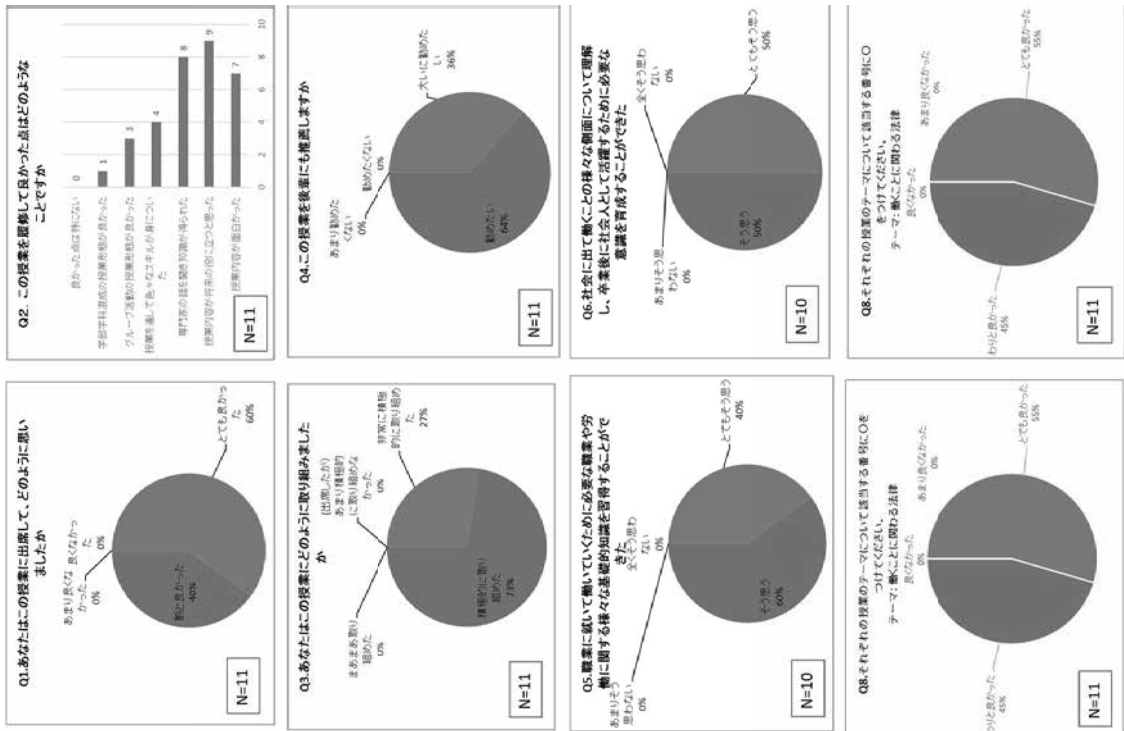
(1) 学生の積極的な授業参加

昨年度の課題として、学生の積極的な授業参加が挙げられていたが、今年度はその対応として、3回のプレゼンテーションの進捗を学生に行わせるようにした。司会、タイムキーパーが主な仕事であるが、自分たちでの時間を進めて行くという気持ちは伝わってくるが、より良い進捗をしてより良い場を作るというところまでは到達していなかった。進捗については、事前にミーティング時間を設けるなど次年度に向けて改善したい。

(2) 討議について

今年度はプレゼンテーション準備の時間が2コマあり、その2コマについては学生にゴールを示し、基本的にはそれぞれのグループが進めていくため、学生同士の討議時間が多くなっている。教員もその間グループを回しながら、ファシリテーターとしていくが、グループのメンバー構成によって議論の質にばらつきが多く見られた。グループの中に積極性が高く、意識の高い学生が1〜2名いるとそのグループの議論はより深く活性化されるが、そうでない場合は高きだけの形での議論にとどまっている。具体的には、第3回目の課題の際、「人生において大事なのは何か」というテーマに対して、ある学生が「絶対にお金でしょ」という意見を発した

資料 1 2017 年度「キャリアデザイン 2」授業終了時アンケート結果 (1/2)



のに対して、「本当にお金だけなのか?」という発言が出てそこから議論が深まり、最初に意見を言った学生自身が「お金も大事だけど、もっと大事なことがあることに気づいた」という感想を授業後に残していた。

このような議論ができるようなクラスにするにはどうしたらいいのか、教員の働きかけやグループ編成、問いの設定など今後も試行錯誤が必要である。

- 4 次年度に向けての課題
- 4.1 専門家講師の変更
- 2 年間授業を実施して来たが、次年度は授業趣旨を踏まえ、上で、弁護士協会や労働基準局、FP 協会などから専門家の講師派遣を検討していきたい。

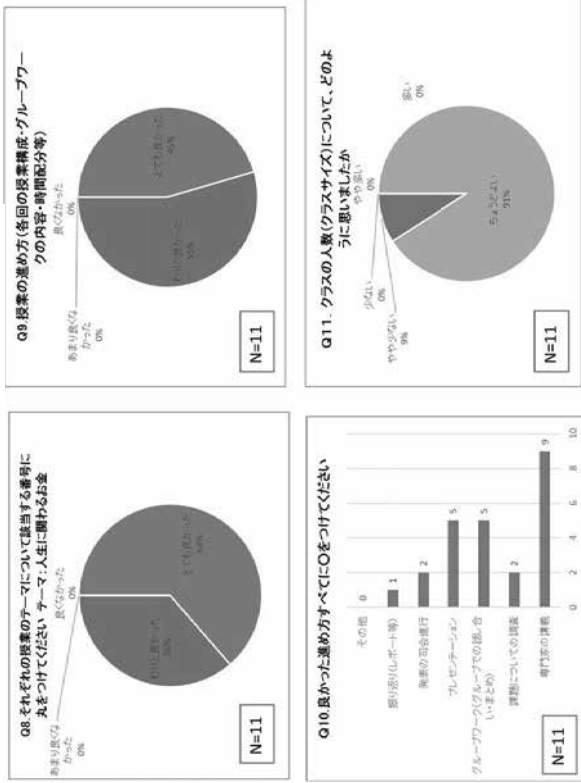
4.2 受講者数を増やす取り組み

履修者 15 名、単位取得者 11 名という人数をどう増やしていくかは昨年同様の大きな課題である。引き続き受講者数を増やす取り組みについて考えていきたい。また、この授業は 2 年生と 3 年生を中心に履修登録しているが、将来社会に出たときに役立つ内容であることを鑑みると 4 年生にも受講して欲しい授業である。そのため、4 年生に向けてのアナウンスも強化していきたい。

添付資料：1. 2017 年度「キャリアデザイン 2」終了時アンケート結果
2. 授業実施内容一覧

以上

資料1 2017年度「キャリアデザイン2」授業終了時アンケート結果(2/2)



※Q7は記述欄のため、グラフはありません。

資料2 授業実施内容一覧

回	授業内容	授業日
1	オリエンテーション (チームビルディング)	9/8
2	授業の事前準備 (3つのテーマについて調べ、考える)	9/15
3	専門家から学ぶ (テーマ: 自分を守る法律)	9/22
4	プレゼンテーション準備 1 (まとめ、整理、調査)	9/29
5	プレゼンテーション準備 2 (資料作成、共有、シナリオ等)	10/6
6	プレゼンテーション・論評	10/13
7	専門家から学ぶ (テーマ: 多様な働き方)	10/20
8	プレゼンテーション準備 1 (まとめ、整理、調査)	10/27
9	プレゼンテーション準備 2 (資料作成、共有、シナリオ等)	11/10
10	プレゼンテーション・論評	11/17
11	専門家から学ぶ (テーマ: 人生に掛かるお金)	11/24
12	プレゼンテーション準備 1 (まとめ、整理、調査)	12/1
13	プレゼンテーション準備 2 (資料作成、共有、シナリオ等)	12/8
14	プレゼンテーション・論評	12/15
15	まとめ	1/19

平成 29 年度 明星教育センター 自校教育事業報告
 ー明星資料展示室と明星教育センター自校教育講座ー

1. 明星大学資料図書館 (15 号館) 明星資料展示室展示

【明星資料展示室概要】

明星資料展示室は、明星大学創立 50 周年記念事業の一つである明星大学資料図書館 (15 号館) の改修に伴い、2014 (平成 26) 年に開設した明星大学の教育・歴史を紹介する展示室である。この展示室では、明星大学創立以来の歴史をテーマ別に紹介する常設展示、明星大学にゆかりのある人物・学生生活やキャンパスの移り変わりなどを紹介する常設展示 (年 1 回展示替え)、同フロア (資料図書館 2 階) にある明星貴重書室・明星ギャラリーとの共通テーマのもの、明星大学と明星大学図書館所蔵の貴重書との関連を紹介する企画展示 (年数回展示替え) の 3 つ展示スペースからなる。

平成 29 年度は、準企画展として、1994 (平成 6) 年～2004 (平成 16) 年の 10 年間の明星大学の発展を紹介する「転換期・再発展期の明星大学」展や 11 月上旬開催の大学祭に合わせて学生の部活やボランティア活動を紹介する「学生の活躍ー明星大学課外活動の歴史」展を開催した。企画展としては、明星大学図書館企画「明星大学貴重書コレクション展 コペルニクスとガリレオー近代天文学の夜明けー」展の合同企画として「理工学部の体験教育」展を開催した。以下、平成 29 年度の資料図書館明星資料展示室の展示に関して、会期・展示内容 (テーマ) を紹介する。

【明星資料展示室展示記録】

<ul style="list-style-type: none"> ■ キャンパスの IT 化の導入 2000 (平成 12) 年～2001 (平成 13) 年 ■ 心理相談センター・教職等諸資格センターの開設 2001 (平成 13) 年・2003 (平成 15) ■ 明星大学日野校・青梅校の改組 1992 (平成 4) 年～2003 (平成 15) ■ 明星大学創立 40 周年事業 2004 (平成 16) 年 	
<p>企画展「学生の活躍ー明星大学課外活動の歴史」</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 課外活動の写真「モザイクアート」 ■ 明星大学の課外活動のはじまり ■ 学生の課外活動における活躍の現在 	<p>平成 29 年 11 月 3 日 ー 平成 30 年 3 月 7 日</p>
<p>企画展「理工学部の体験教育」展</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 理工学の教育のあゆみ「モザイクアート」 ■ 「理工学部の体験教育」展について ■ 明星大学理工学部の教育の歩み ■ 明星学苑日食観測団による南米皆既日食観測 ■ 理工学部の体験教育の今 	<p>平成 30 年 3 月 22 日 ー 平成 31 年 3 月上旬 (予定)</p>

会期	展示内容 (テーマ)
平成 29 年 11 月 3 日 ー 平成 30 年 10 月下旬 (予定)	<p>準企画展「転換期・再発展期の明星大学」</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 転換期・再発展期の明星大学 1994 (平成 6) 年～2004 (平成 16) 年 ■ 再発展期のキャンパス図 1994 (平成 6) 年～2004 (平成 16) 年 ■ キャンパスの再開 1995(平成 7)年～2004(平成 16)年

【平成 29 年度 展示の様子】

準企画展 準企画展「転機期・再発展期の明星大学」



準企画展「学生の課外活動の歴史」



企画展「明星大学の教育」展



2. 明星教育センター自校教育講座

明星教育センターは、明星教育に関する研究・啓発・広報活動並びに明星教育の具現化及び学生の社会的・職業的・自立促進等に関する教育研究活動を実践するために、明星教育センター自校教育講座を開催している。平成 29 年度は、「理工学部体験教育」展のテーマに合わせて、理工学部の歴史・教育のあゆみを学ぶため、以下の講座を開催した。開講日時内容を紹介する。

【講座内容】

開催日	概要
平成 30 年 2 月 23 日 11:00～12:00	<p>第 1 回 自校教育講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ テーマ：「理工学部からみた明星大学の歩み」 ■ 内容：明星大学創設と共に開設された理工学部の歴史・教育のあゆみについて、卒業生でもあり、現役教員でもある講師を向かえて、講座を開催する。 ■ 講師：明星大学理工学部 合田 一夫教授 ■ 場 所：明星大学本館 2 階 明星教育センターラーニングコモンズ
平成 30 年 2 月 23 日 10:00～11:00	<p>第 2 回 自校教育講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ テーマ：「理工学部からみた明星大学の歩み」 ■ 内容：明星大学創設と共に開設された理工学部の歴史・教育のあゆみについて、卒業生でもあり、現役教員でもある講師を向かえて、講座を開催する。 ■ 講師：明星大学理工学部 原田 久志教授

	<p>■ 場 所：明星大学本館 2 階 明星教育センターラーニングコモンズ</p>
--	---

【講座の様子】



明星大学理工学部 合田 一夫教授による講座



明星大学理工学部 原田 久志教授による講座